叔母を飼う

ほよよ堂



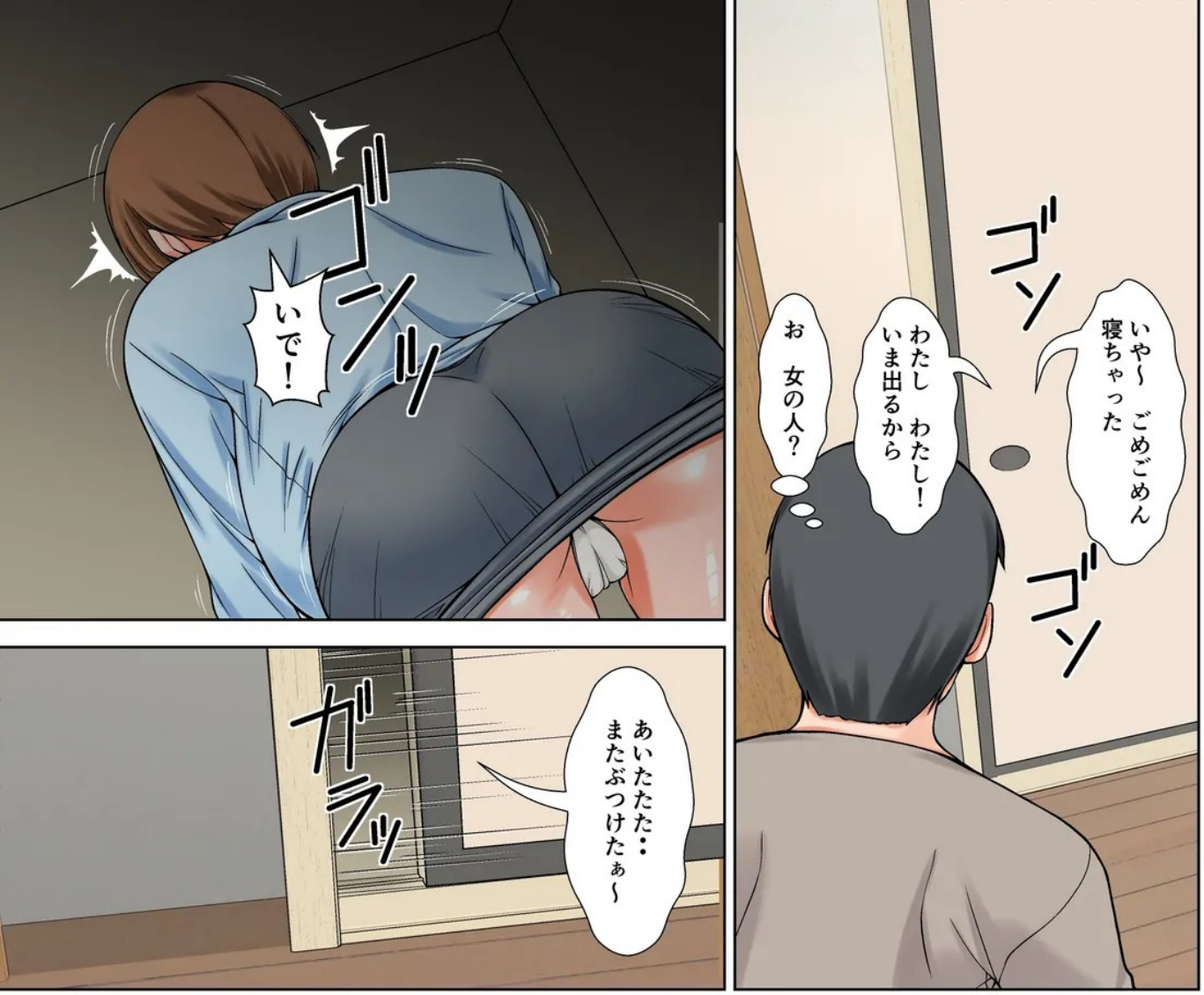

カリ
カリ
カリ

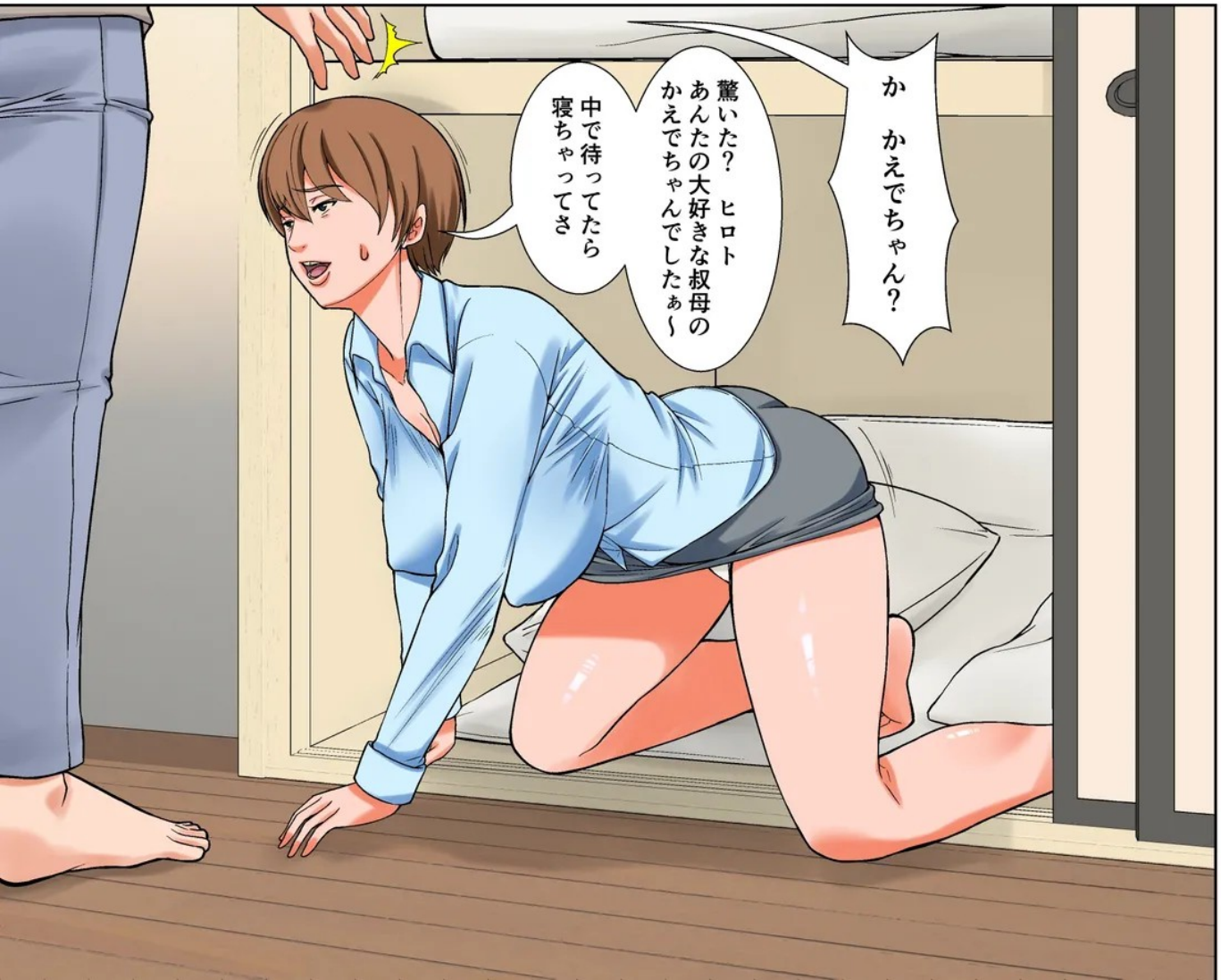


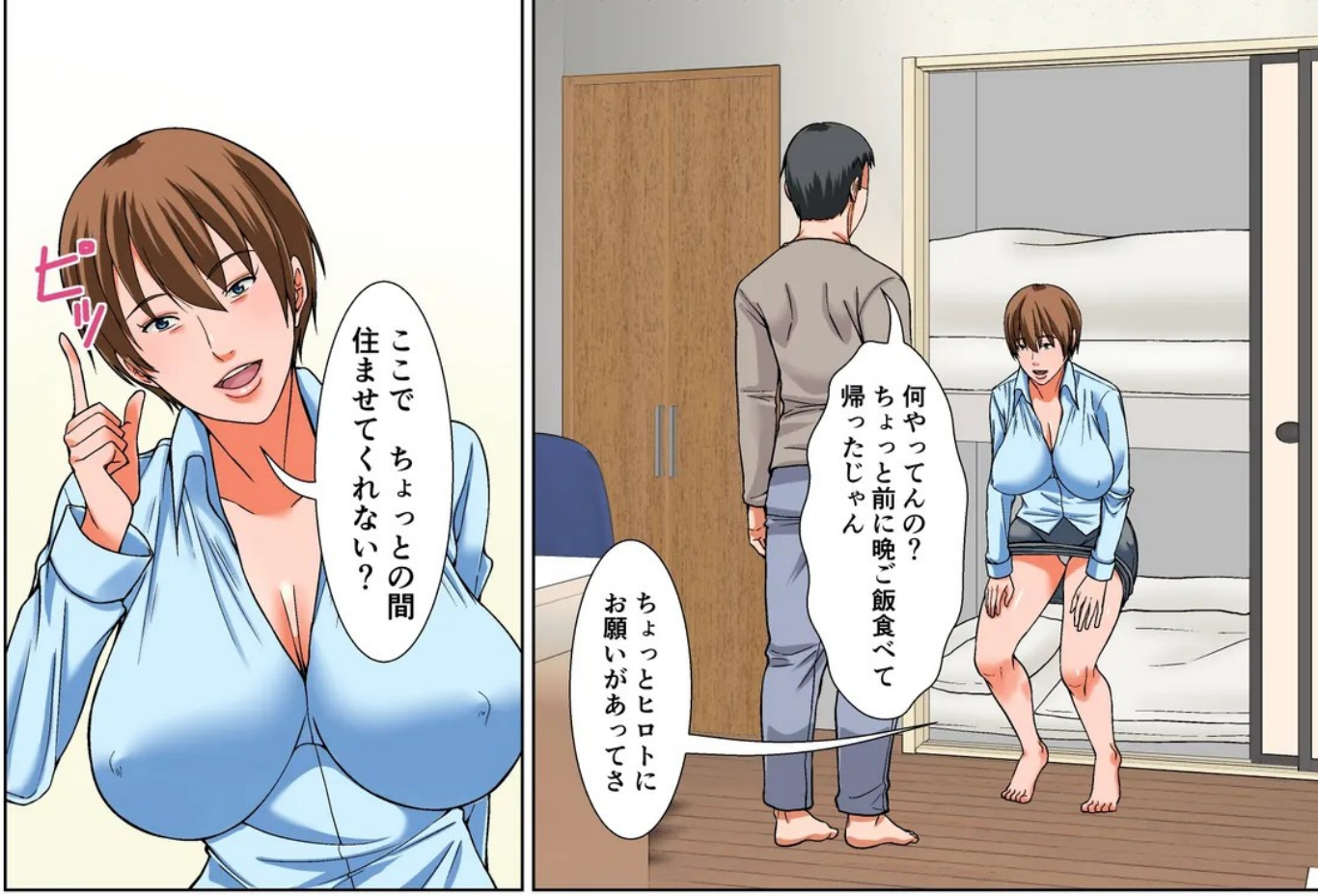

え・・？
押し入れに誰かいる！


！
いでっ！
ゴンッ


だ 誰だよ 中にいるのか
家族の誰かか？ いや何の為に？
強盗だったらどうする？ 先に通報するべきだったか？
ゴッ


いや～ ごめごめん
寝ちゃった
ゴン
ゴン
わたし わたし！
いま出るから
お 女の人？
ゴンッッ
いで！
ガラッ
あいたたた・
またぶつけたぁ～


か かえでちゃん？
驚いた？ ヒロト
あんたの大好きな叔母の
かえでちゃんでしたぁ～
中で待ってたら
寝ちゃってさ

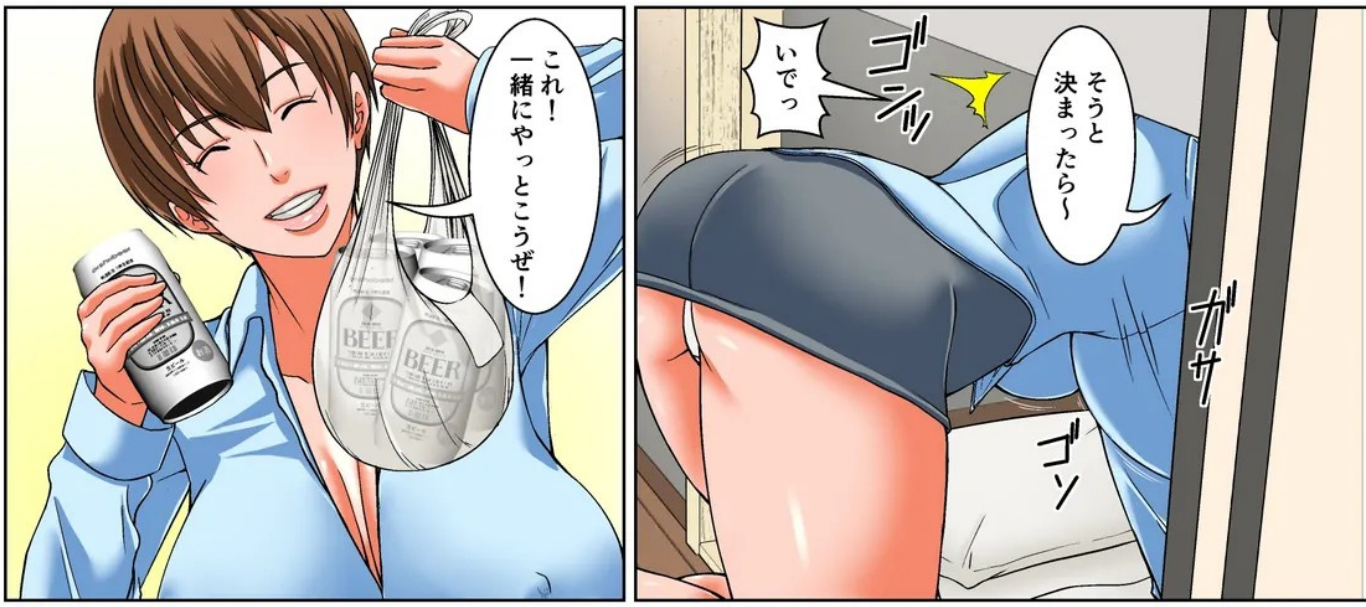

何やってんの？
ちょっと前に晩ご飯食べて
帰ったじゃん
ちょっとヒロトに
お願いがあってさ
ピッ
ここで　ちょっとの間
住ませてくれない？

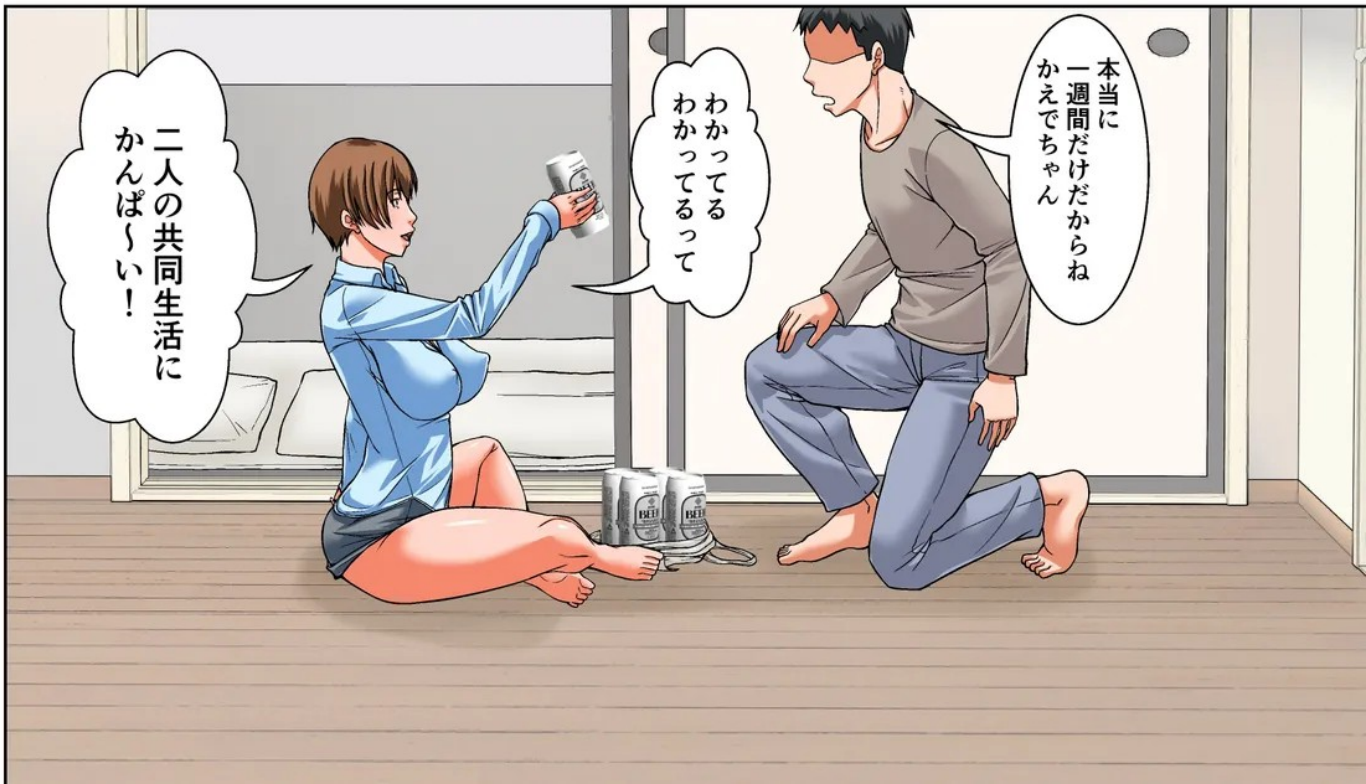

は？
そんなの
父さんと母さんに
言えばいいじゃん
いや～・実は
仕事辞めちゃってさ
その事お姉ちゃんには
バレたくないんだよね
パチッ
要するにね
お姉ちゃんには内緒で
このヒロトの部屋で


しばらくの間
住ませて！
お願い！


し しばらくって
何日？
ん～…
三か月？
長くて一年？
母さんに
話してくる！
わーっ！
まってまって！
お願い！ヒロトぉ～
もう部屋も解約
してきちゃったし
とりあえず
一ヶ月・
一週間でいいから！
ずる
ずる
失業手当だけじゃ
厳しいから
家賃浮かしたいの
可愛そうな叔母さんを
助けてよぉ～
働きたくないで
ござる！
ぜったいに
働きたくないで
ござる！
ジタ
ジタ
ジタ
ジタ


もう・
みっともないな
わかったよ
じゃあ一週間だけね
え
ほんと？
サンキュー
ヒロト！


そうと
決まったら～
ゴンッ
いでっ
ガサ
ゴソ
これ！
一緒にやっとこうぜ！
BEER
BEER


本当に
一週間だけだからね
かえでちゃん
わかってる
わかってるって
二人の共同生活に
かんぱ～い！

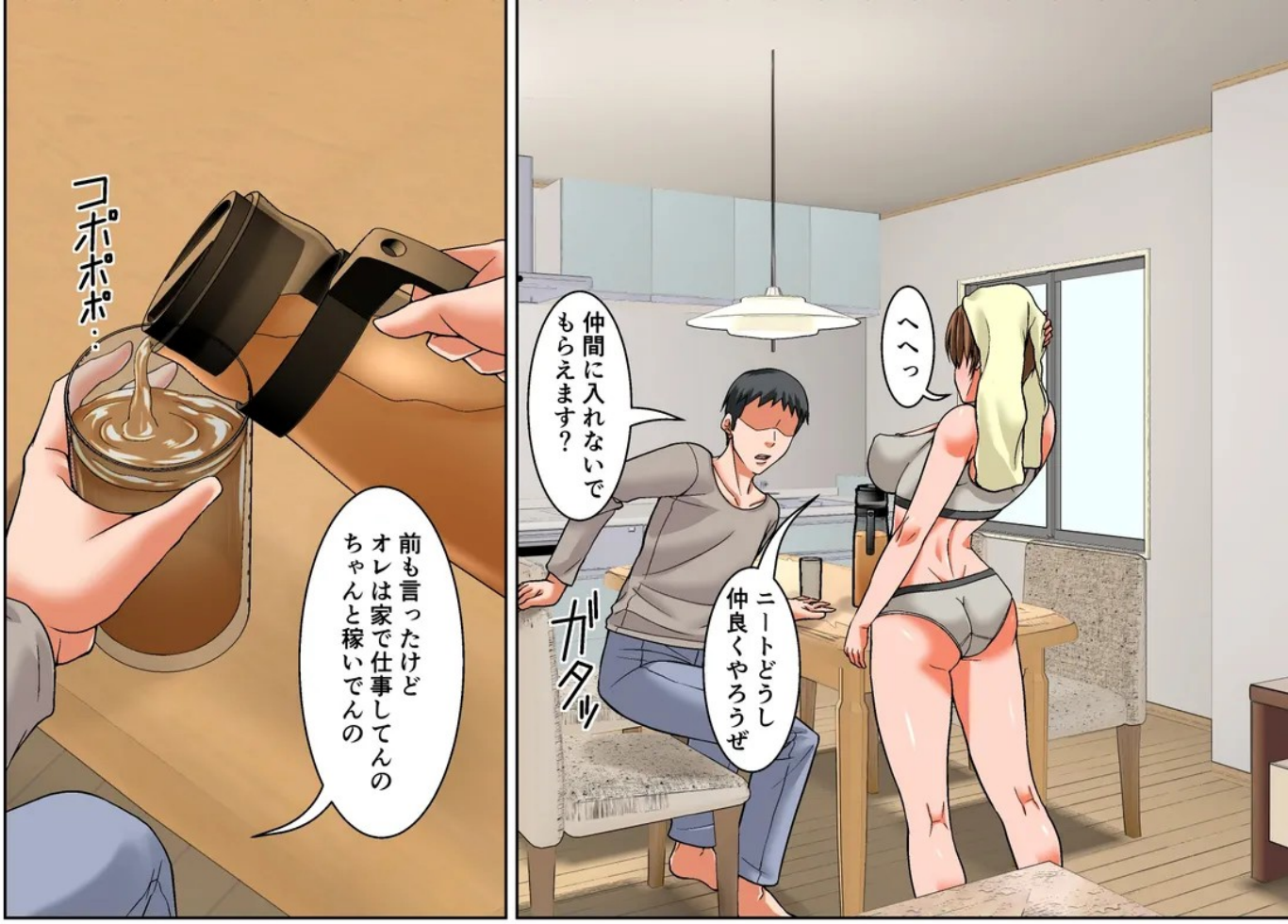

ガチャ
！




大丈夫なの？
そんなウロウロして

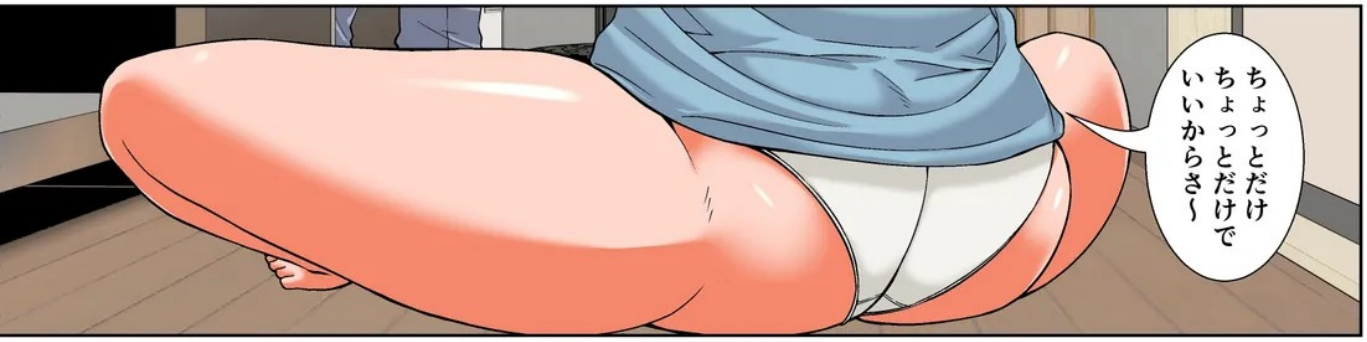

やあ
おはよう！
ヒロト！


大丈夫　今日は
姉さんスーパーの
バイトで出てるから

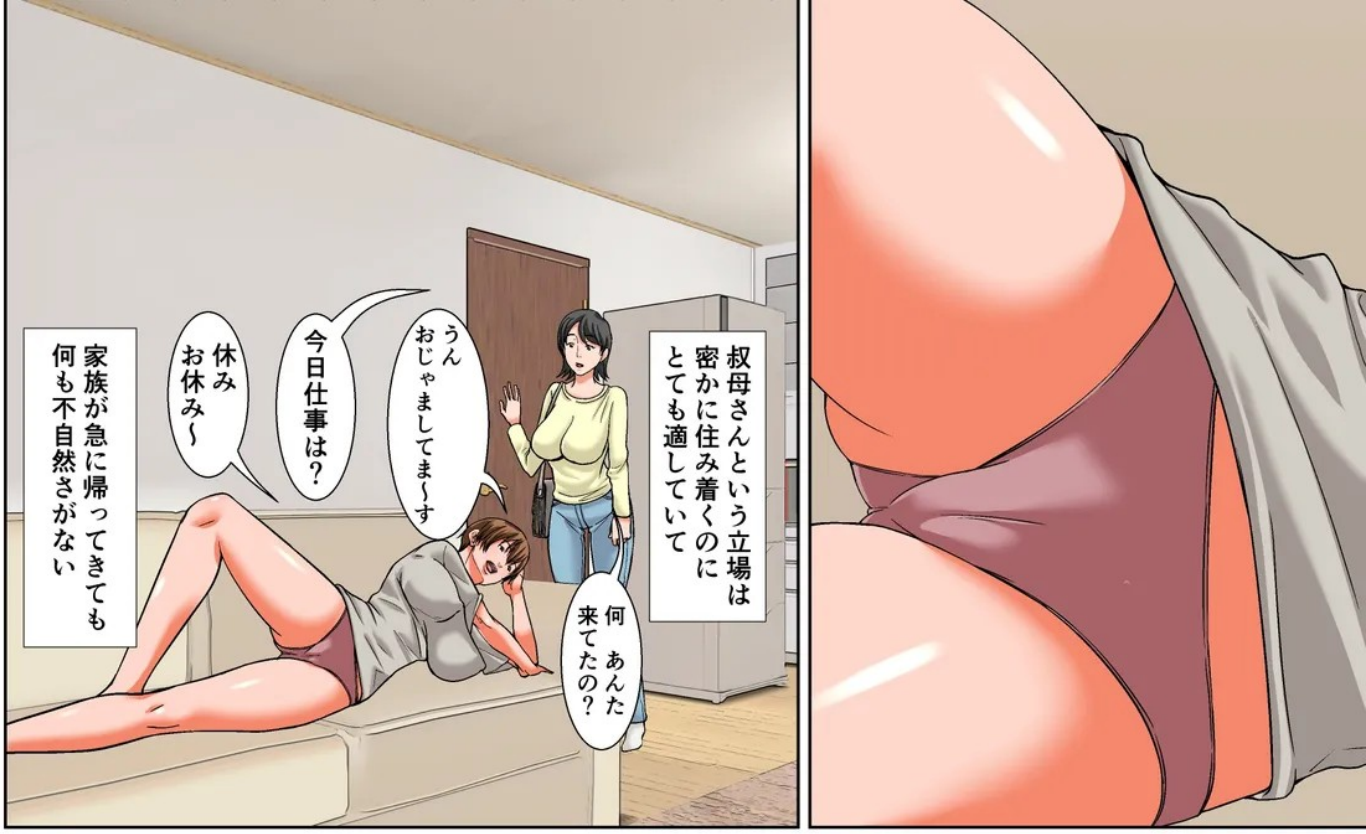

へへっ
仲間に入れないでもらえます？
ニートどうし仲良くやろうぜ
ガタッ
コポポポ…
前も言ったけどオレは家で仕事してんのちゃんと稼いでんの


あれまじなの？ニートの言い訳かと思ってた
絵描く仕事してんの？何？エロいやつ？
いイラストだよ
本当はエロい漫画も描くけど・・
むにゅ
バイト代くれたら叔母さんがモデルやってあげようか～
とりあえず服貸して
ゴク
ゴク

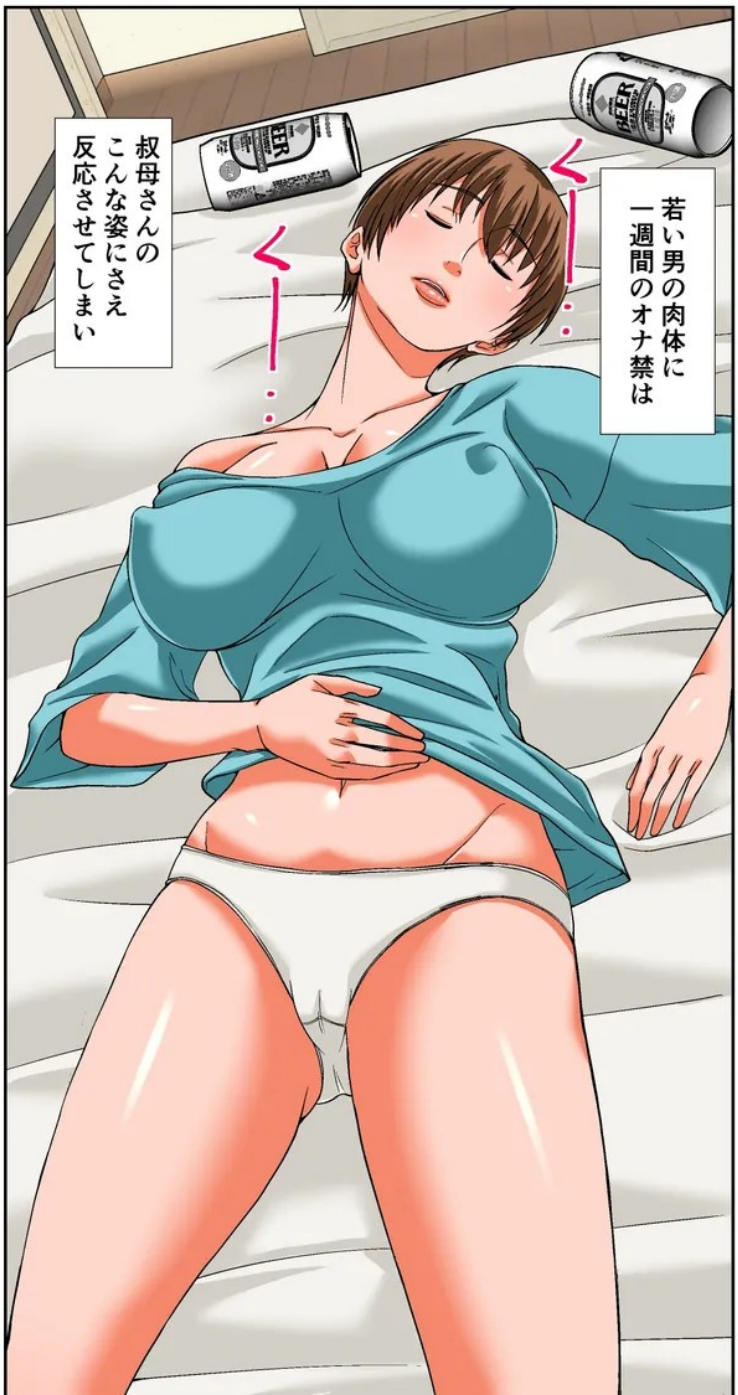

こうして
自由気ままな叔母との
共同生活が始まった
だから
仕事してるんだって
ねえ～
一緒にゲーム
しようよ～
え～っ
つまんないよ
一緒に叔母さんと
遊ぼうよ！
叔母さんは
いつも暇そうだが
楽しそうにしていた
無理！


ちょっとだけ
ちょっとだけで
いいからさ～


ふい～
やっぱ
広いお風呂は
いいな～
この生活を続けれたら
最高だよね
なんとかヒロトを説得
できるといいんだけどな
ちゃぷ・・

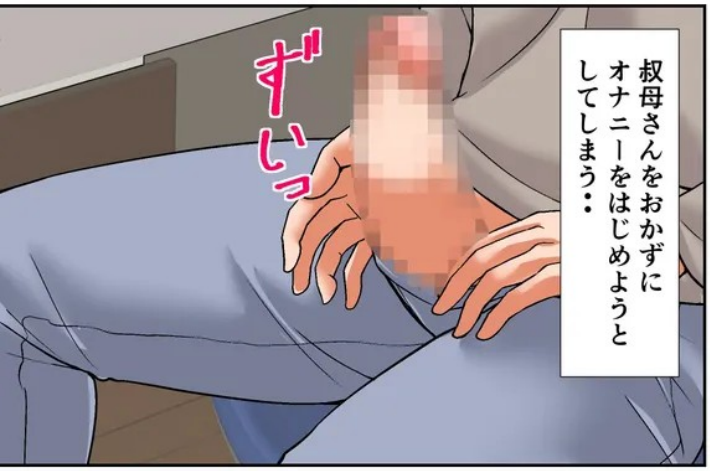

叔母さんという立場は
密かに住み着くのに
とても適していて
何 あんた
来てたの？
うん
おじゃましてま～す
今日仕事は？
休み
お休み～
家族が急に帰ってきても
何も不自然さがない


しかし
叔母さんと約束した
最終日を一日前にして
約束をした時には
思いもつかない
弊害に気付く


若い男の肉体に
一週間のオナ禁は
叔母さんの
こんな姿にさえ
反応させてしまい


叔母さんが常に家に
いるという事は
オナニーをする事が
できないという事実に

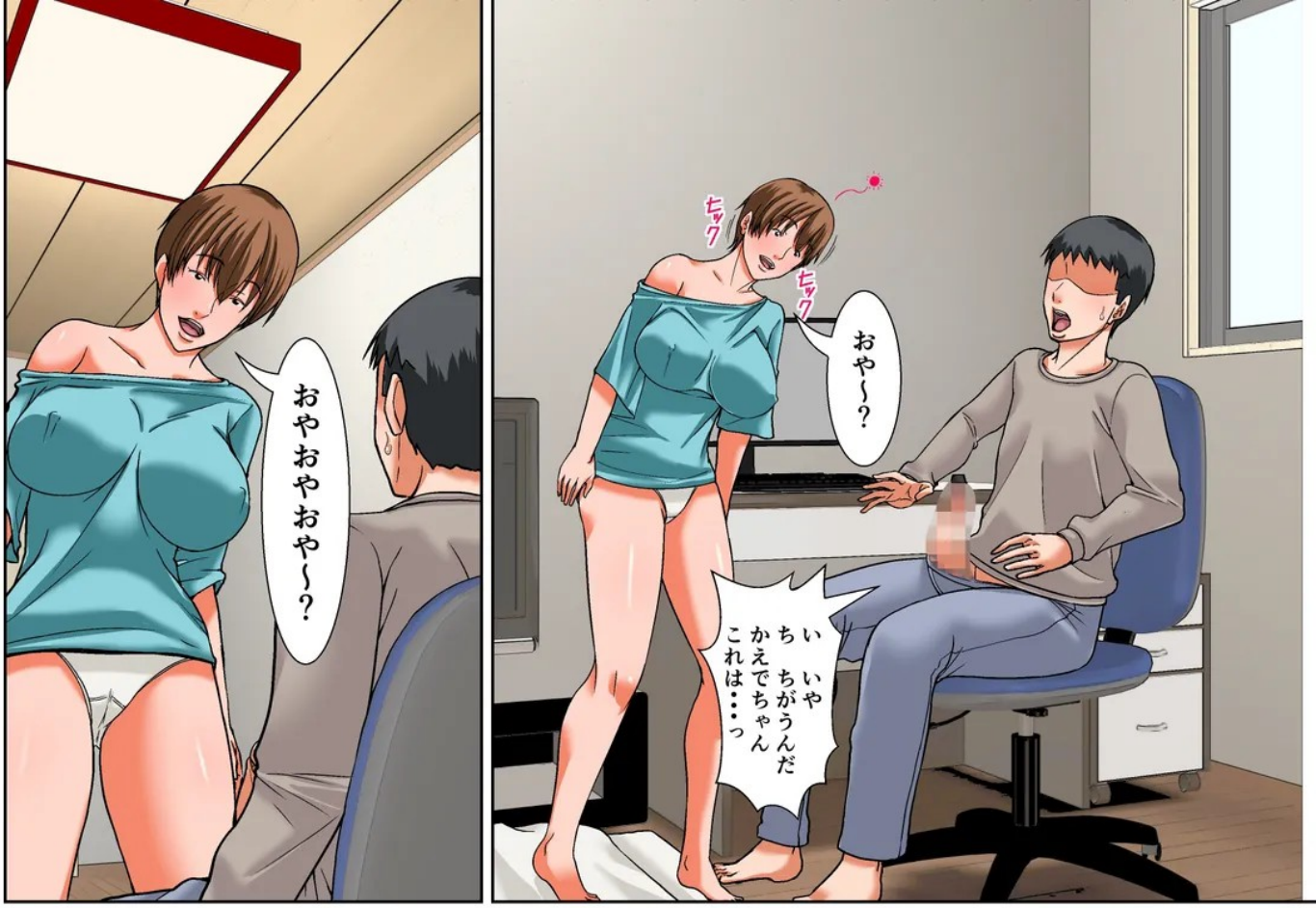

アソコを
勃起させてしまう
くー…
くー…

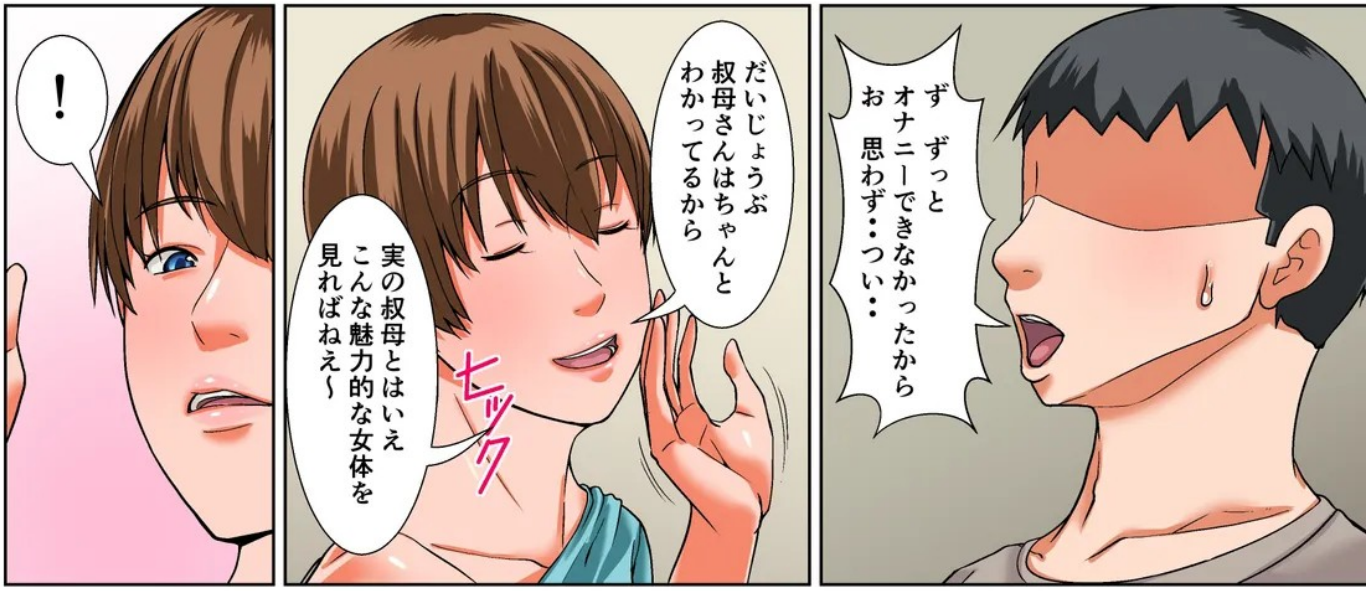

ずいっ
叔母さんをおかずに
オナニーをはじめようと
してしまう・・


しかも
こともあろうに
叔母さんの目の前で


あ
ガバッ


ぱちっ


おや～？
ヒック
ヒック
いやいやちがうんだかえでちゃんこれは・・・っ
おやおやおや～？

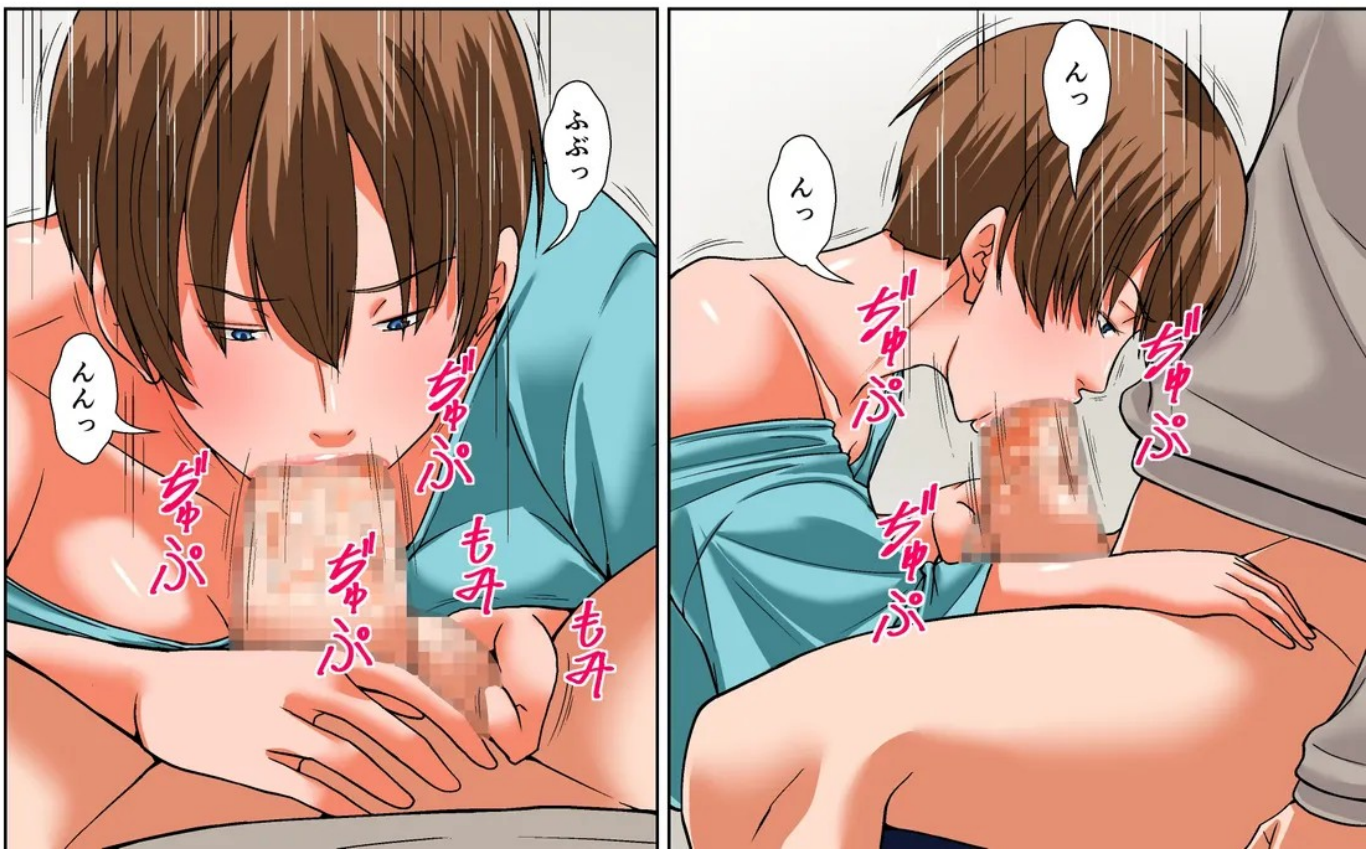

ずずっとオナニーできなかったからお思わず・・つい・・
だいじょうぶ叔母さんはちゃんとわかってるから
実の叔母とはいえこんな魅力的な女体を見ればねえ～
ヒック
！

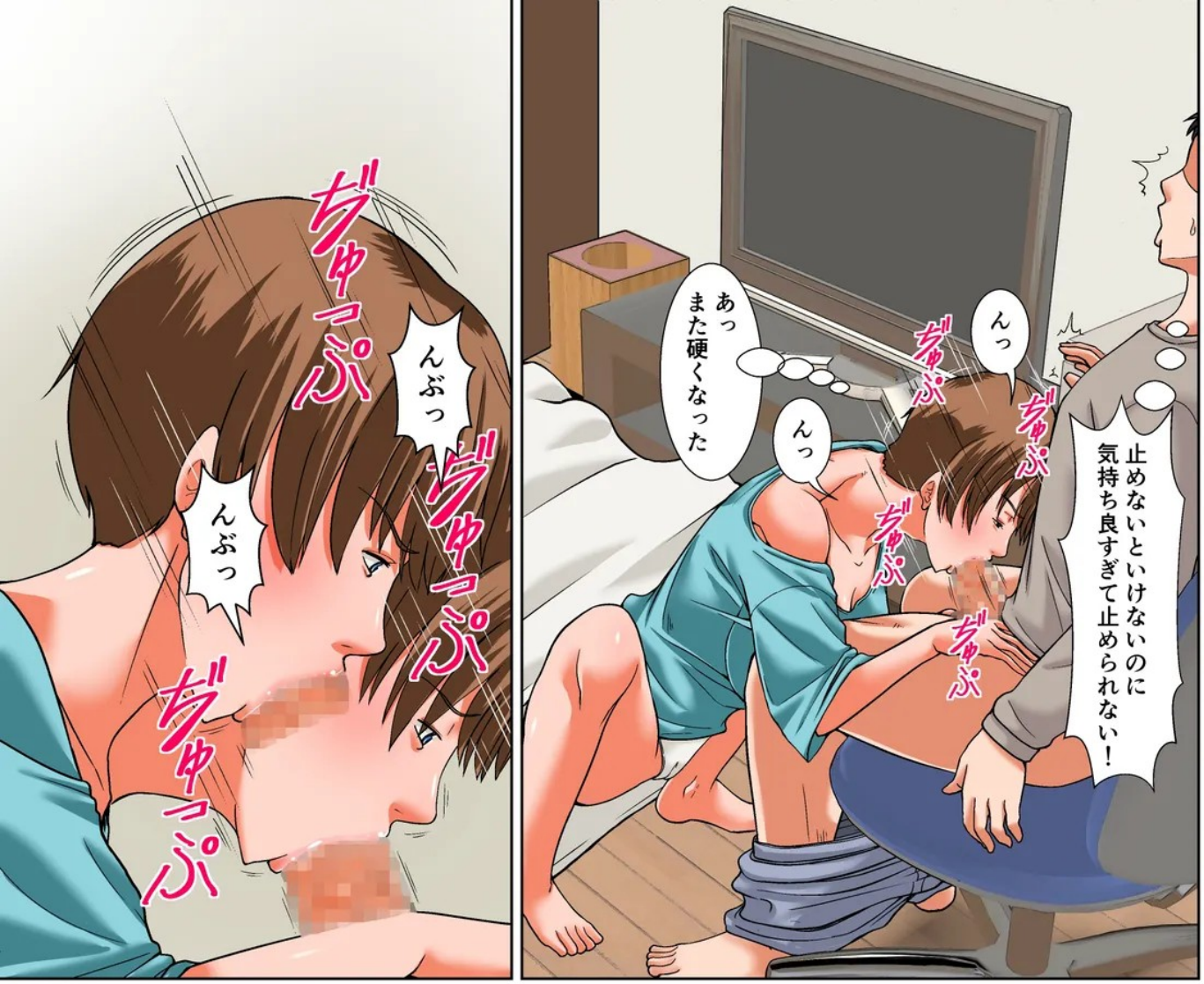

え！なにこれデカ！
ちんちん？ちんぽ！

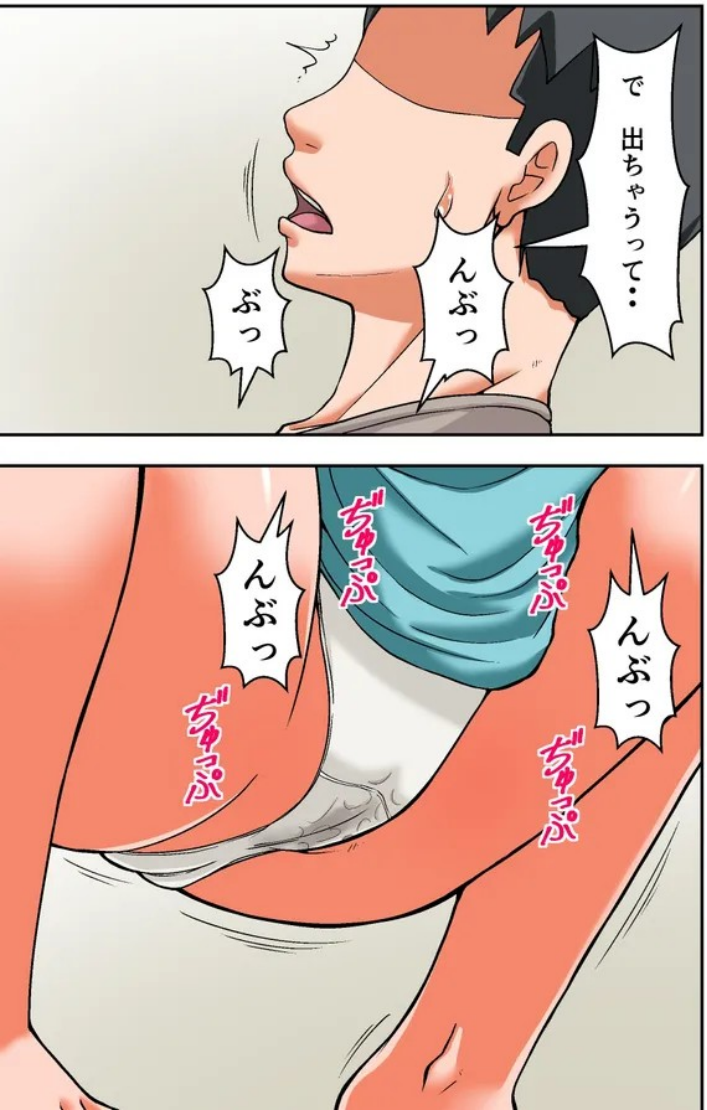

もう
仕方ないな〜
ちょ　ちょっと・・
叔母さんが責任とって
抜いてあげよう
ずり・・
あらあら
はし・・
知らない間に
こんなに
成長しちゃって


ちょ・・まずいよ
かえでちゃん・・
いいから　いいから
叔母さんに
まかせなさいって
レニ
レニ
レニ
レニ
はむ・
かぷ
おっ
ちゅーっ
ちゅぱ
ちゅぱ


はむっ
えあ～・・・
れろお～～・・・
大きいうえにガチガチに硬いわ
んぶ・・
ぐぷぷぷ・・


んっ
んっ
ちゅぷ
ちゅぷ
ちゅぷ
ふぶっ
んんっ
ちゅぷ
ちゅぷ
もみ
もみ

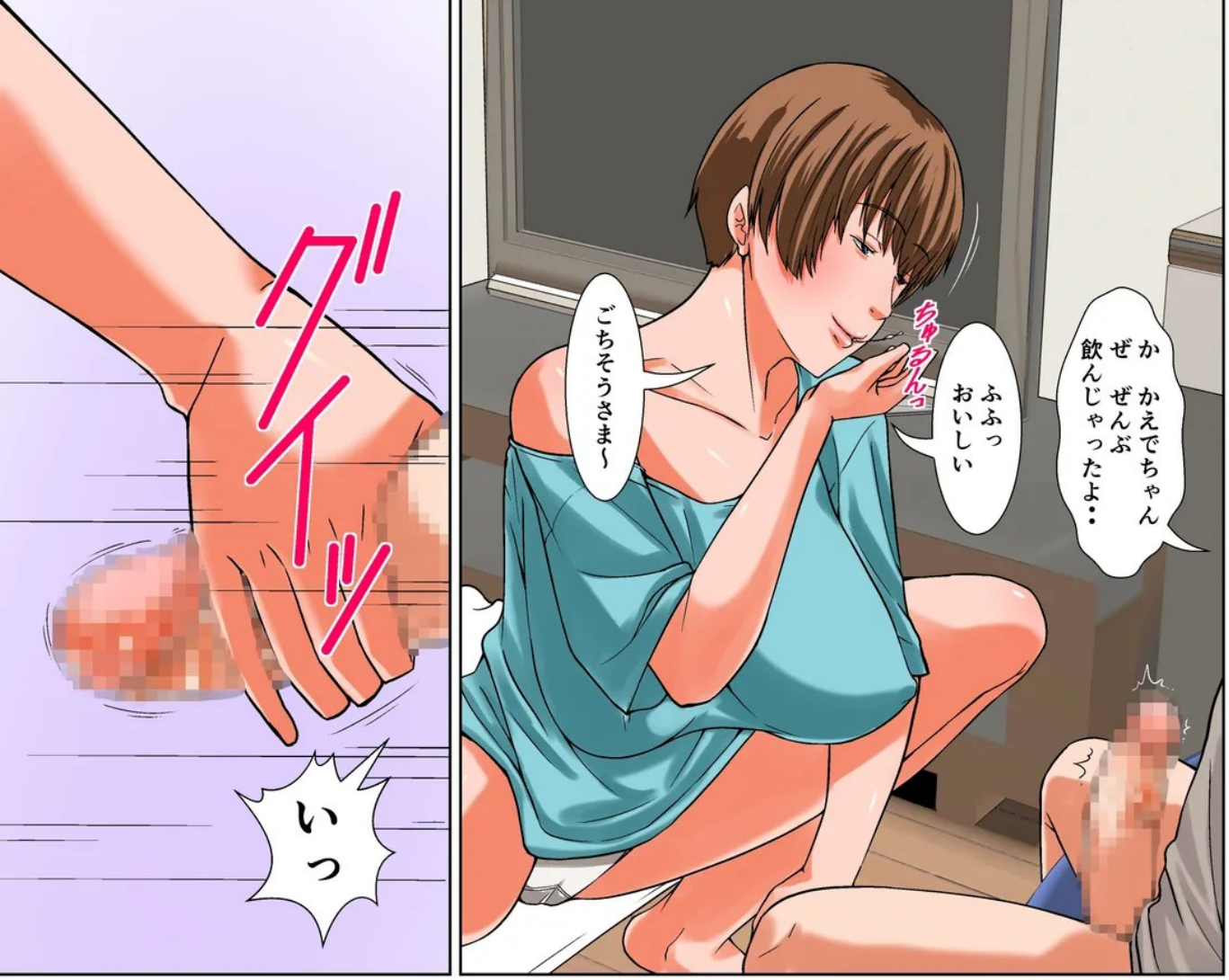

止めないといけないのに
気持ち良すぎて止められない！
んっ
ぢゅぷ
ぢゅぷ
あっ
また硬くなった
んっ
ぢゅぷ
ぢゅぷ
ぢゅぷ
んぶっ
ぢゅっぷ
んぶっ
ぢゅっぷ


あっ　かえでちゃん
そんな激しくしたら
ぶっ
ヤバイって・・
ぢゅっぷ
んぶっ
ぢゅっぷ
んぶっ
ぢゅっぷ
で　出ちゃうって・・
んぶっ
ぶっ
んぶっ
ぢゅっぷ
ぢゅっぷ
んぶっ
ぢゅっぷ


んんっ・・・
ゴププ・・
んぶぶっ！
ドピュピュッ


チンポの大きさに比例する精液の量だわ
ゴキュゴキュゴキュ
ん・・・


ふ～・・
ちゅ～～・・
ずるる・・


か かえでちゃん
ぜ ぜんぶ
飲んじゃったよ・・
ふふっ
おいしい
ちゅぷんっ
ごちそうさま～
グイッツ
いっ


いでででっ
ほらほら
こっちに来なさい
ぐい
ぐい
な 何すんの
かえでちゃん！
何するかって～？
！
カバッ


ドサッ
あ

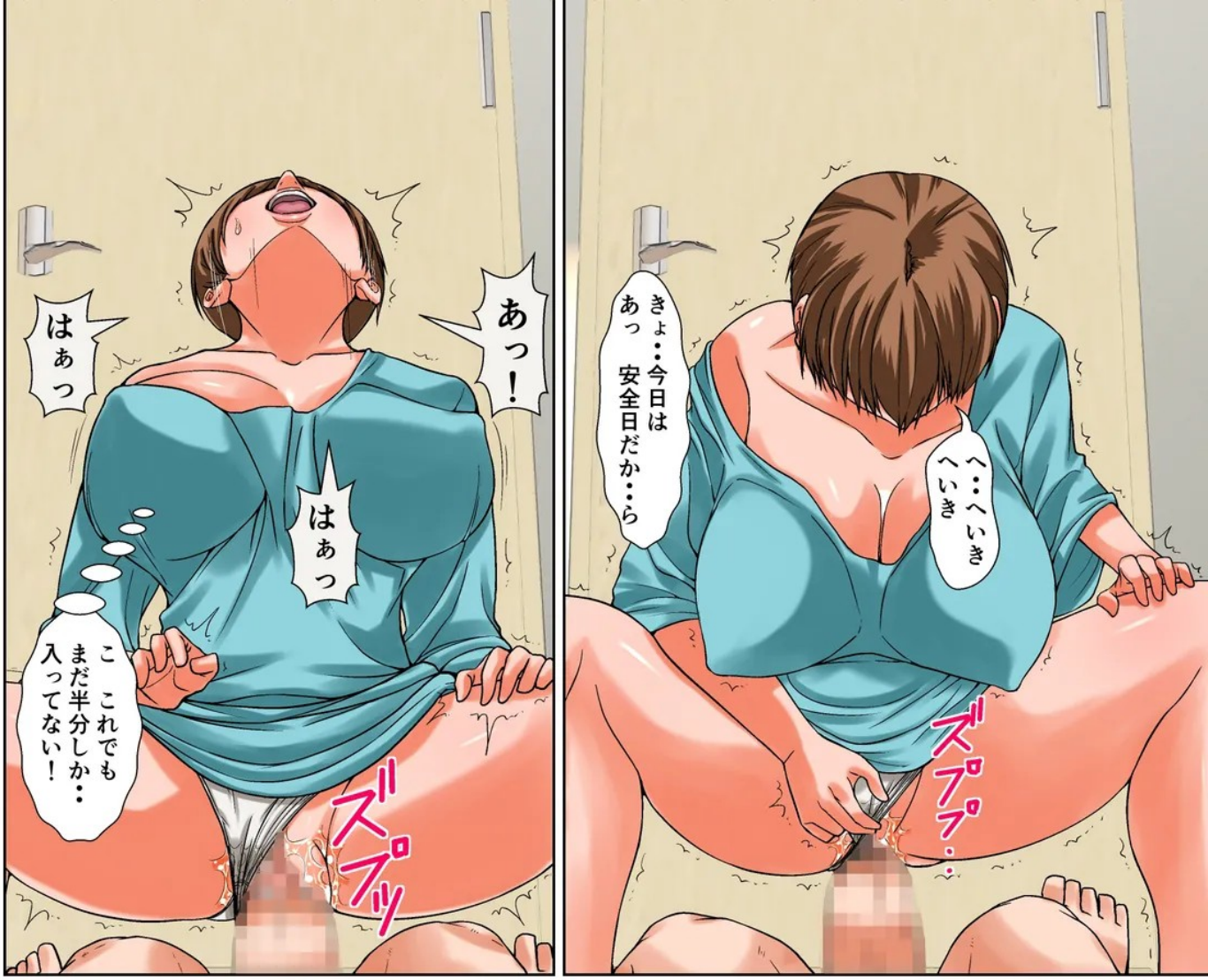

は・・む❤
ぶちゅ
んんっ・・

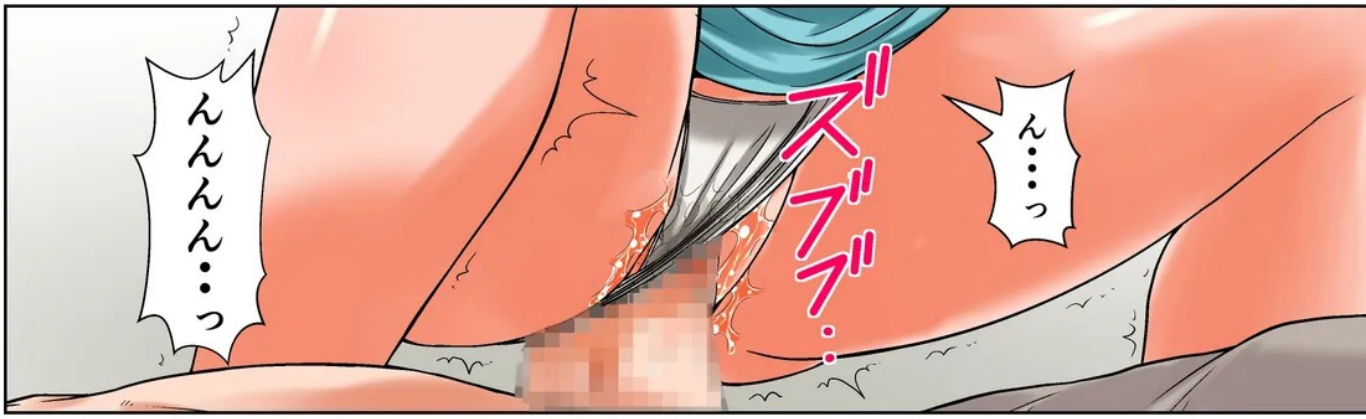

ほんとに
わかんないのかな〜


は・・
んあ・・
れろ
あ・・
れろ
れろ


んっ
ぢゅる
んっ
くちゅ
くちゅ
んっ
んっ


すりり
すりり
すりり

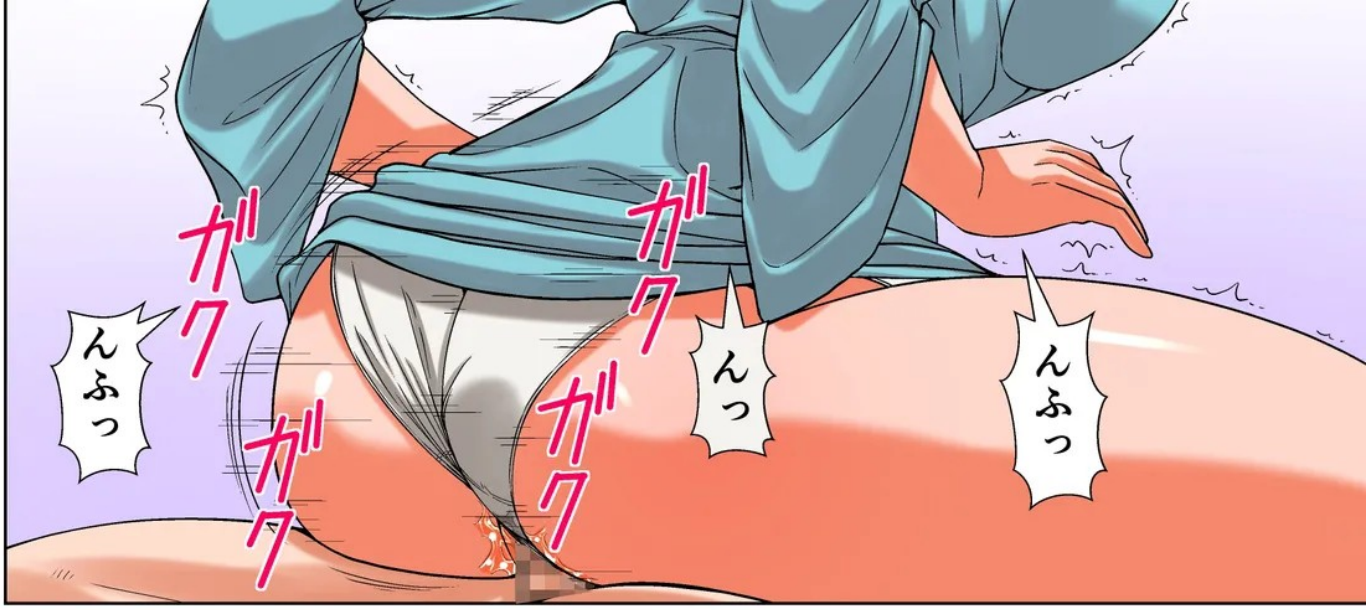

きょ・・今日は
あっ　安全日だか・・ら
へ・・へいき
へいき
ズププ・・
あっ！
はぁっ
はぁっ
これでも
まだ半分しか・・
入ってない！
ズプッ

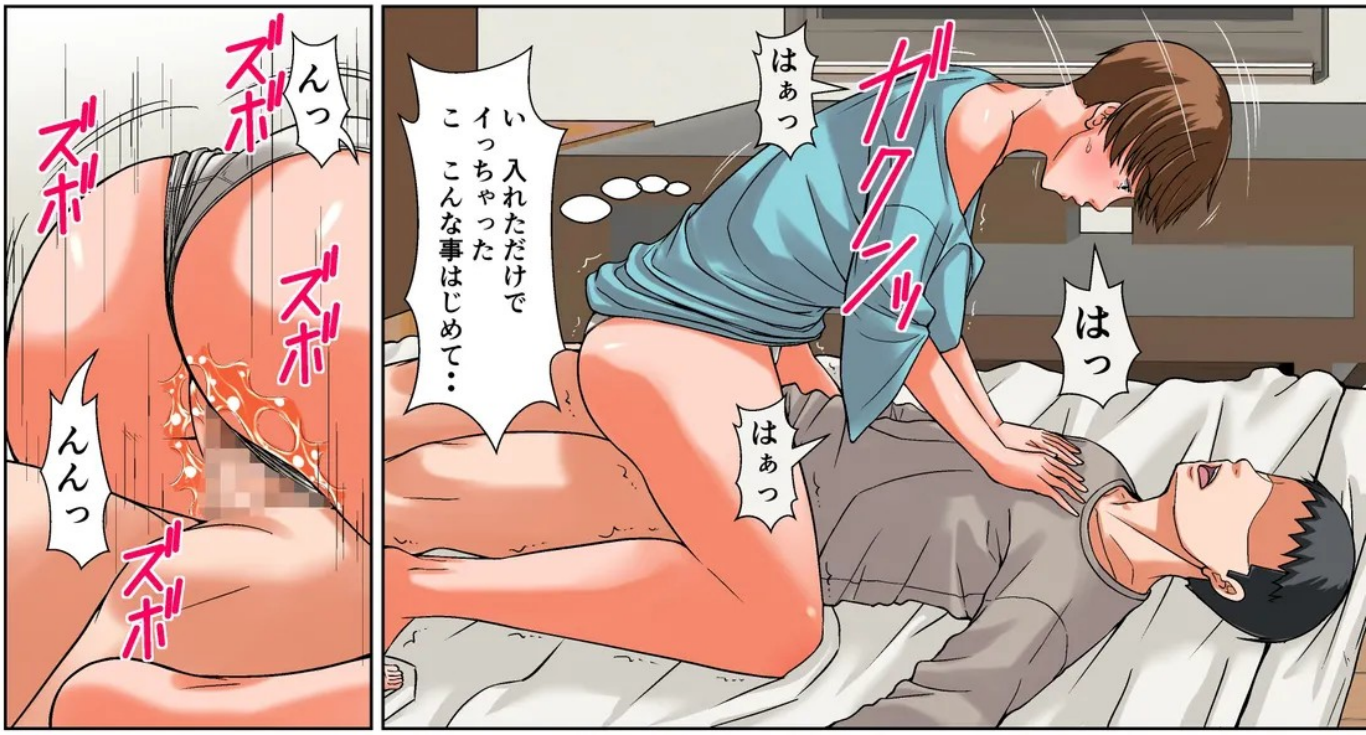

ん・・・っ
ズブブ・・
んんんん・・っ

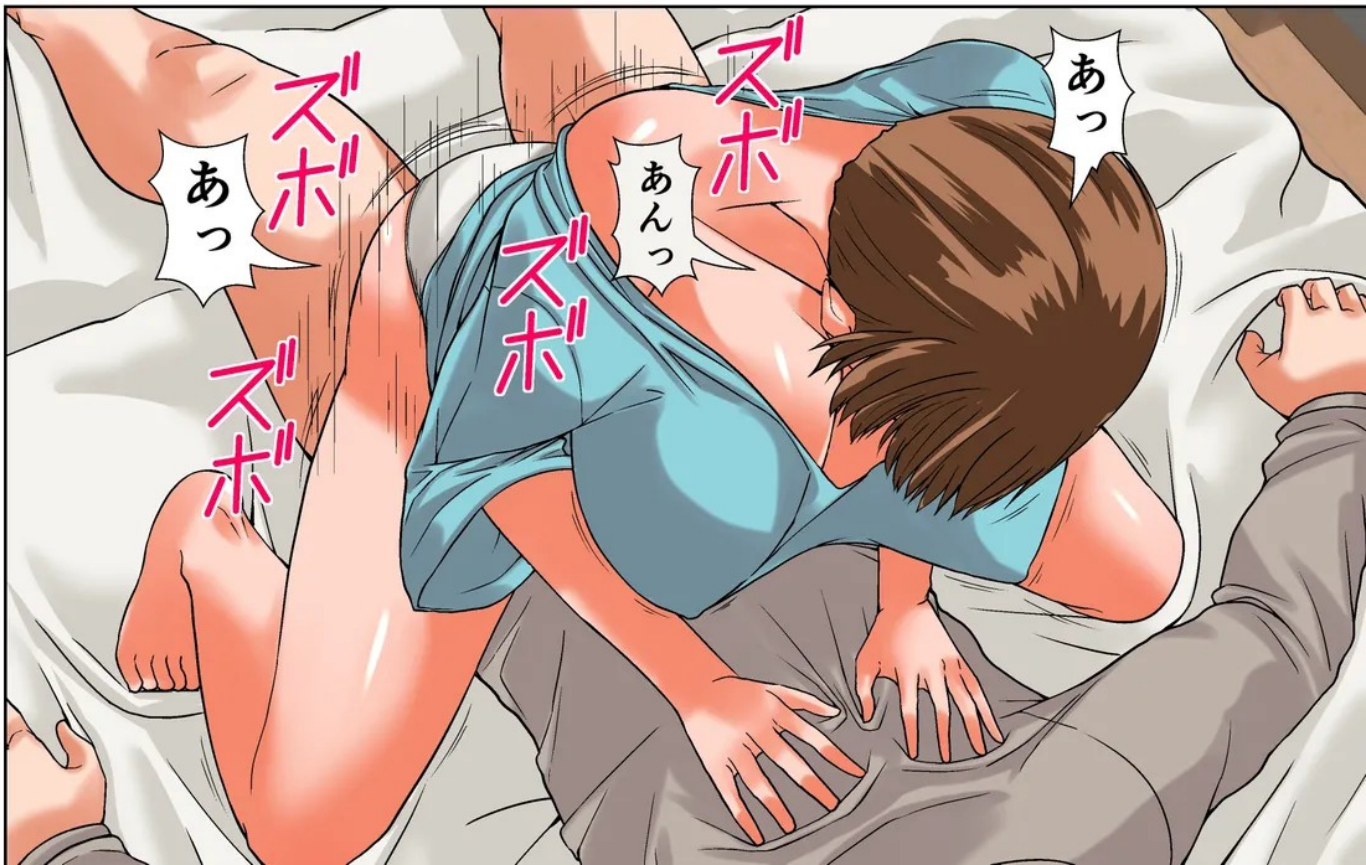

かはぁっ！
ガッ
はっ
はっ

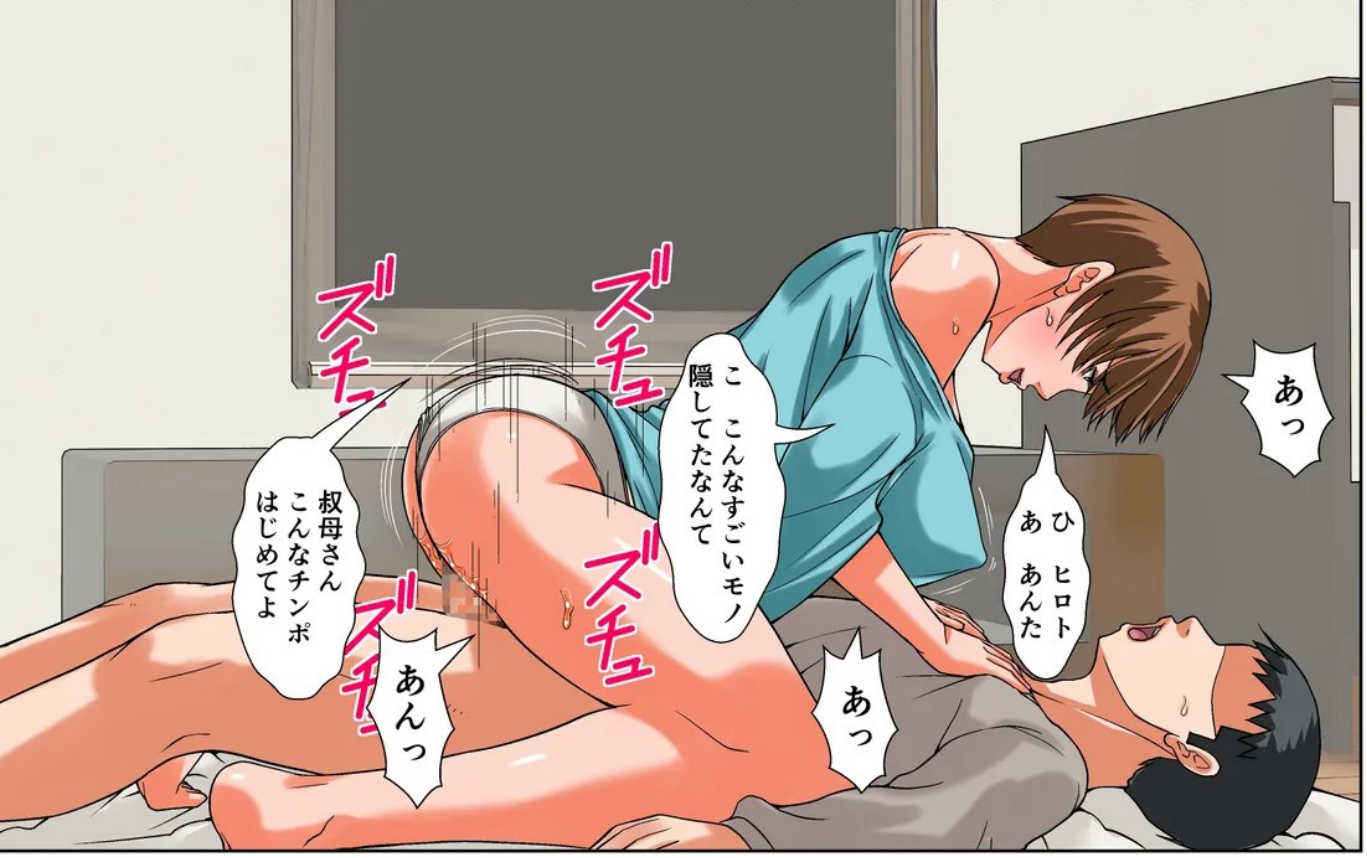

ぷる
ぷる
ぷる
ぷる
ぷる
し子宮口に・
おっ
おおっ・
チンポがキスしてきたぁ〜！
おっ
おお・っ
グブブ・ッ
んふぅ・んんっ
ゴリッ

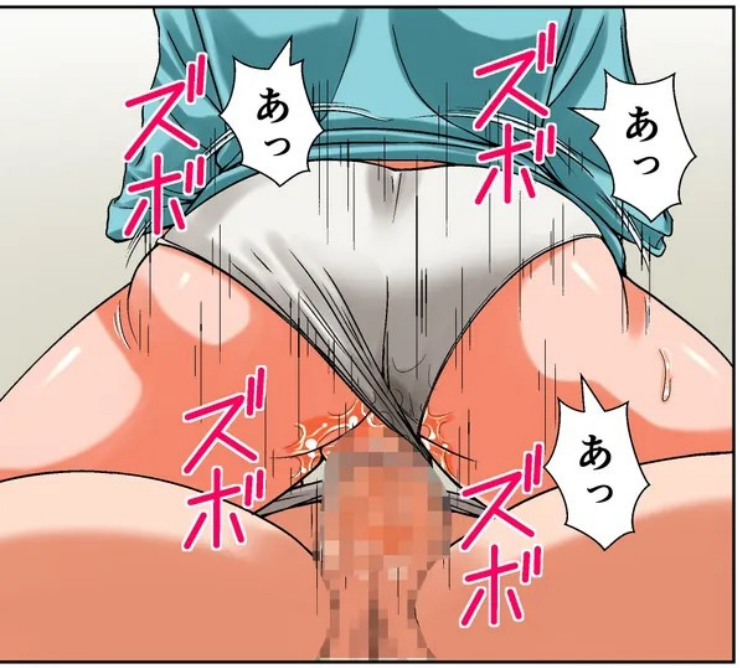

おん・っ！
ビクーンッ
ビクーンッ
んふぅんん〜っ！


んふっ
んっ
ガク
ガク
ガク
ガク
んふっ


はぁっ
ガクンッ
い 入れただけで
イっちゃった
こ こんな事はじめて・・
はっ
はぁっ
んっ
ズボ
ズボ
ズボ
ズボ
んんっ


あっ
ズボ
あんっ
ズボ
ズボ
ズボ
あっ


あっ
ひ ヒロト
あ あんた
こ こんなすごいモノ
隠してたなんて
あっ
ズチュ
ズチュ
ズチュ
叔母さん
こんなチンポ
はじめてよ
あんっ


あっ
ズボ
ズボ
あっ
ズボ
ズボ


ちょっ・
かえでちゃん
そんな激しくしたら
やばいって・
あんっ
あっ


おお・っ
あっ
すっごい・・!
ズチュ
ズチュ
ズチュ
ズチュ


グイッ
！
出したいでしょ？
いいじゃん出しちゃえ
あっ
あんっ
出しちゃえ
出しちゃえ
ズボ
ズボ
ズボ

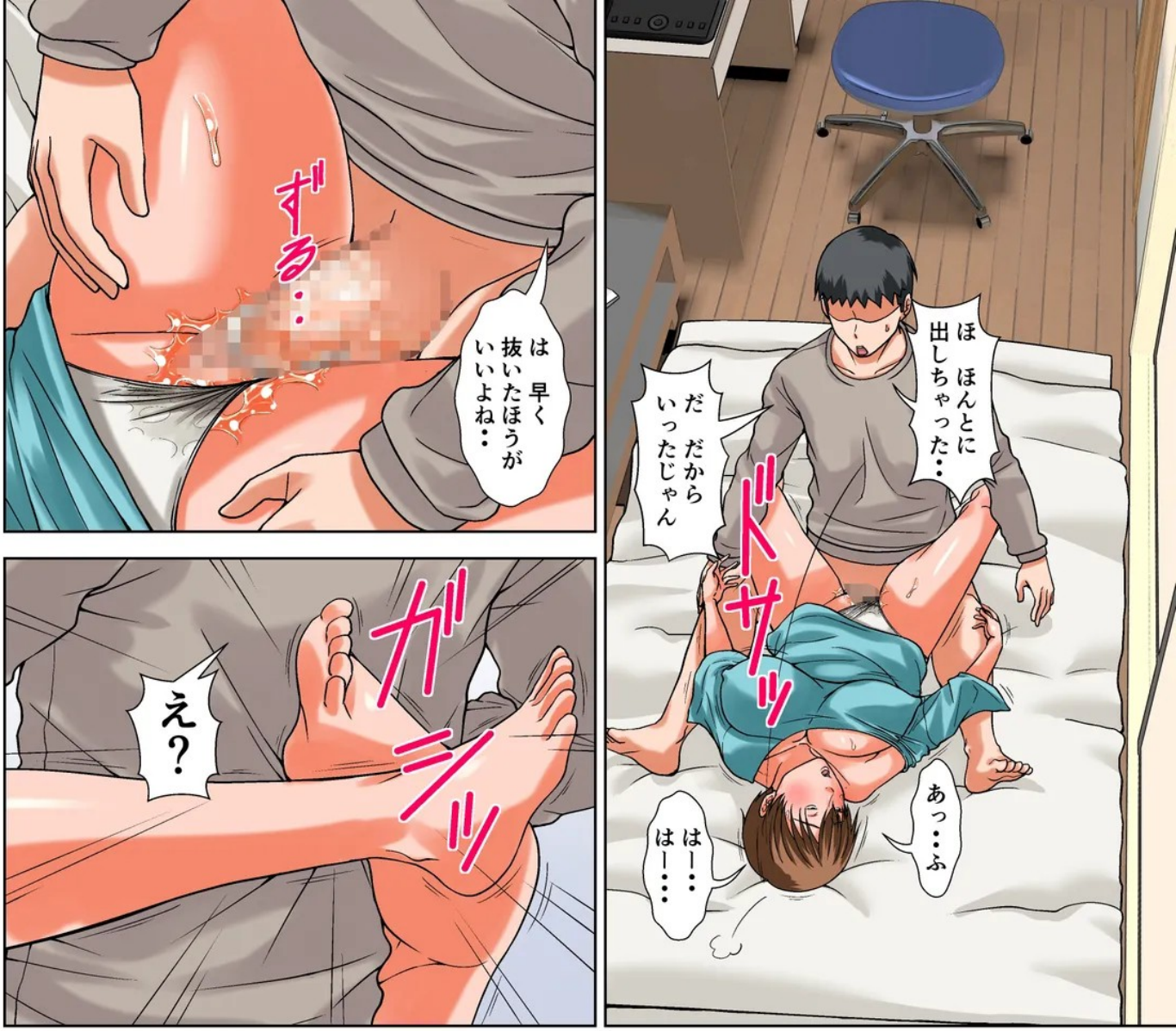

そ それは
さすがに
まずいでしょ？
あっ
な 中出しなんて
なかなか経験
できないわよ
ほ ほら
出しなさい
あっ
あ 安全日だって
いってんじゃん
ズボ
ズボ
ズボ
ズボ
おっ
叔母さんの中に
精液ぴゅっぴゅ
出しちゃいなさい
おっ
ズパンッ
ズパンッ
ズパンッ
ズパンッ


んい・っ
いいっ
ん・っ
いいっ
気持ちいいっ
ズパンッ
ズパンッ
ズパンッ
ズパンッ


ドプッ

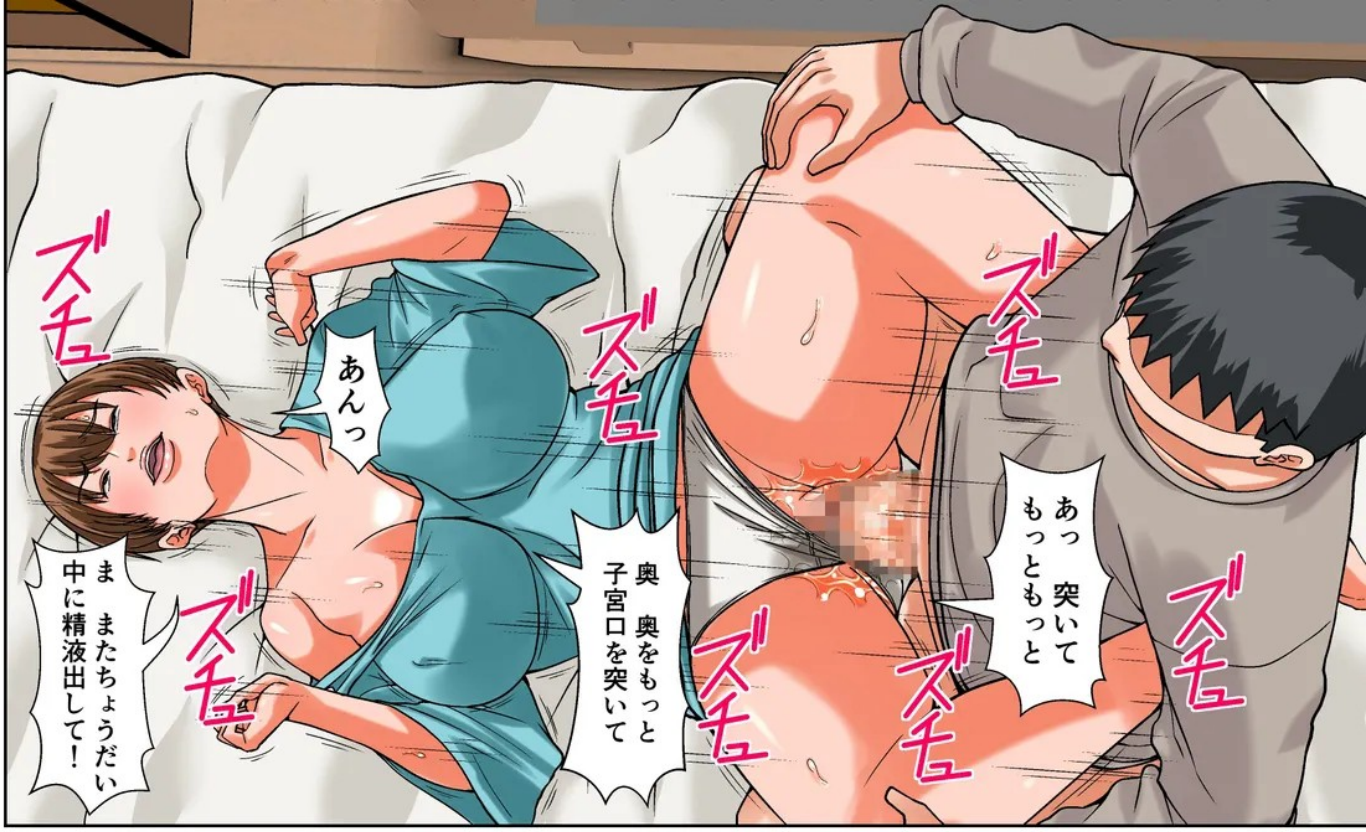

んはあぁ～っ！
ビクビクビクウッ

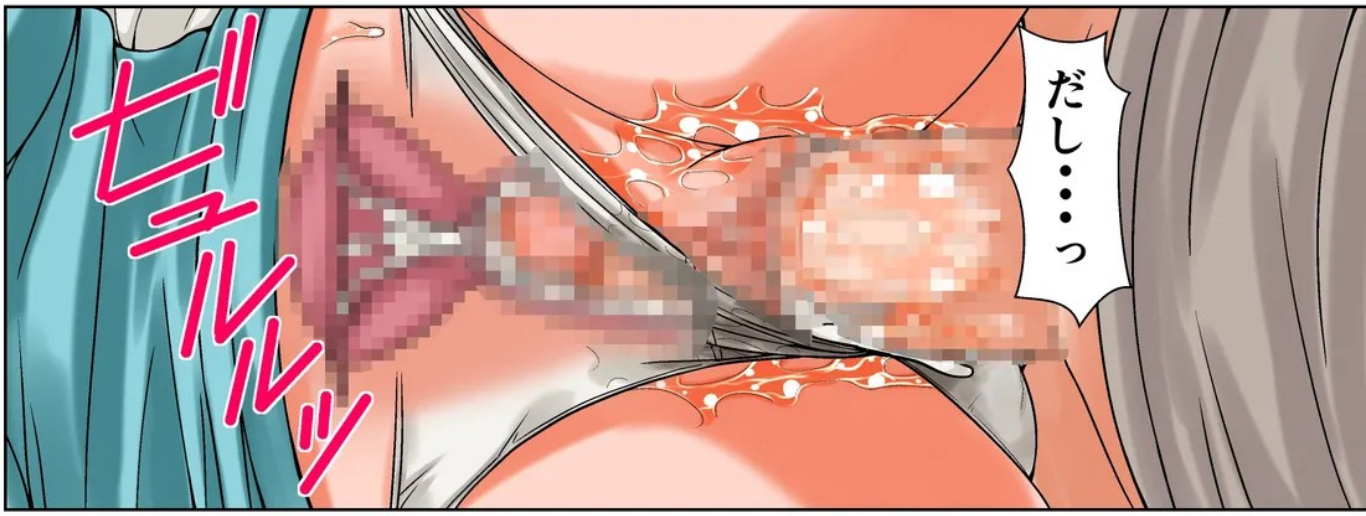

おっ
ビクッ
かはっ
お・・っ
ビクンッ

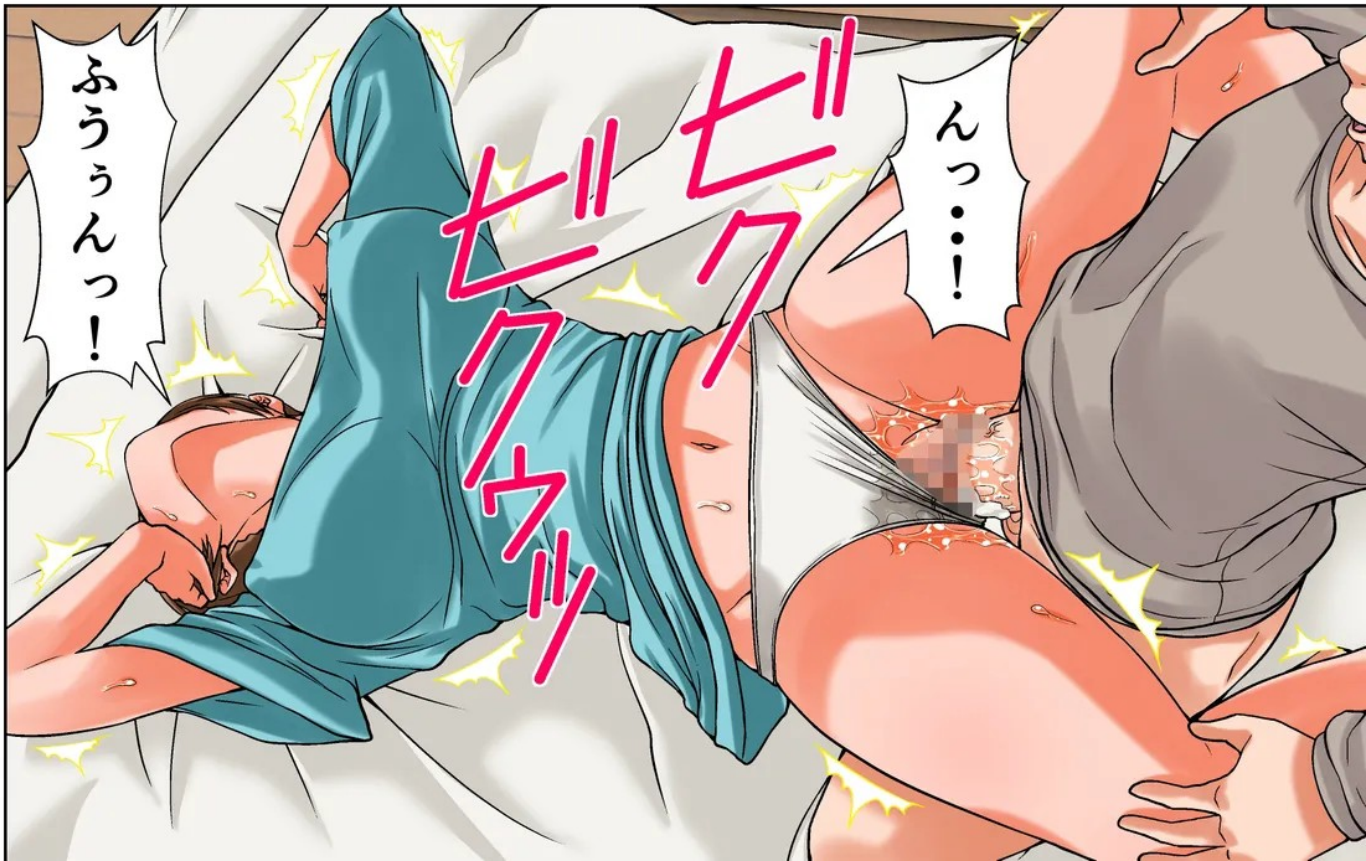

ほ　ほんとに出しちゃった・・
だ　だからいったじゃん
ドサッ
あっ・・ふ
はー・・
はー・・・
ずる・・
は　早く抜いたほうがいいよね・
ガシッ
え？


なに　勝手に抜こうとしてんの？もっとおちんちんちょうだい
グッ
グッ
あ　安全日って言っても絶対じゃないだろ妊娠したらどうすんの
いや　もっとちんぽ欲しい
できるもんなら妊娠させてみなさいよおばさんを孕ませてみなさいよ


もうオレ
知らないからね
ズチュ
あっ
ズチュ
ズチュ
あんっ・いいっ
気持ちいい
ズチュ
あっ
ズチュ
ああんっ
すっごい・・
ズチュ
ズチュ
正面からでも
チンポが奥に
届く・・っ
ズチュ
ズチュ
子宮口に
キスしてくる
ズチュ
おお・っ
ズチュ
あっ
ズチュ
ああんっ
ズチュ
こんなの叔母さん
またすぐイっちゃう
ズチュ
すぐイク
ズチュ
ズチュ

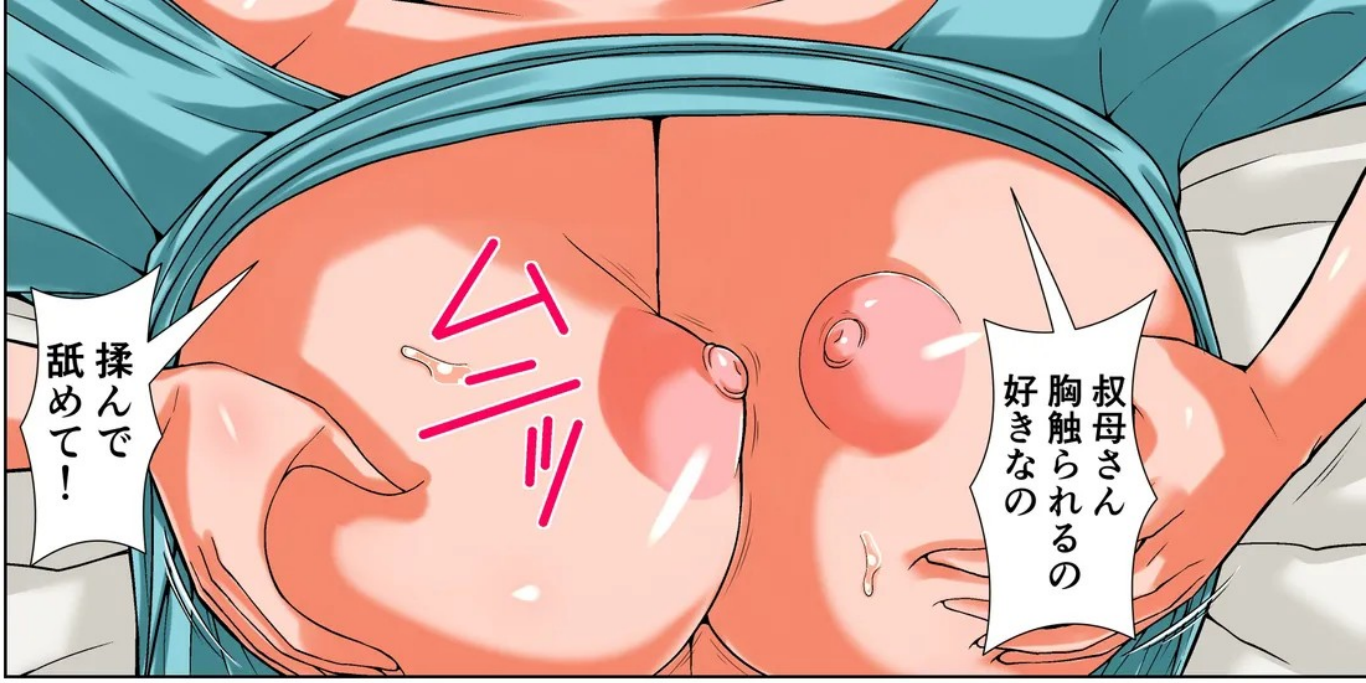

ズチュ
ズチュ
ズチュ
ズチュ
ズチュ
あっ 突いて もっともっと
奥 奥をもっと 子宮口を突いて
あんっ
ま またちょうだい 中に精液出して！


だし・・・っ
ヒュルルッ


んっ・・！
ビクビクウッ
ふうぅんっ！


ブピッ
ねえヒロト
今度は胸も
グッ
また中出しきた・
気持ちいい
ぐぐっ
おっ・・・ふぅっ・・
ぐぐっ


叔母さんの
胸を触って！
はー
はー
グイッ

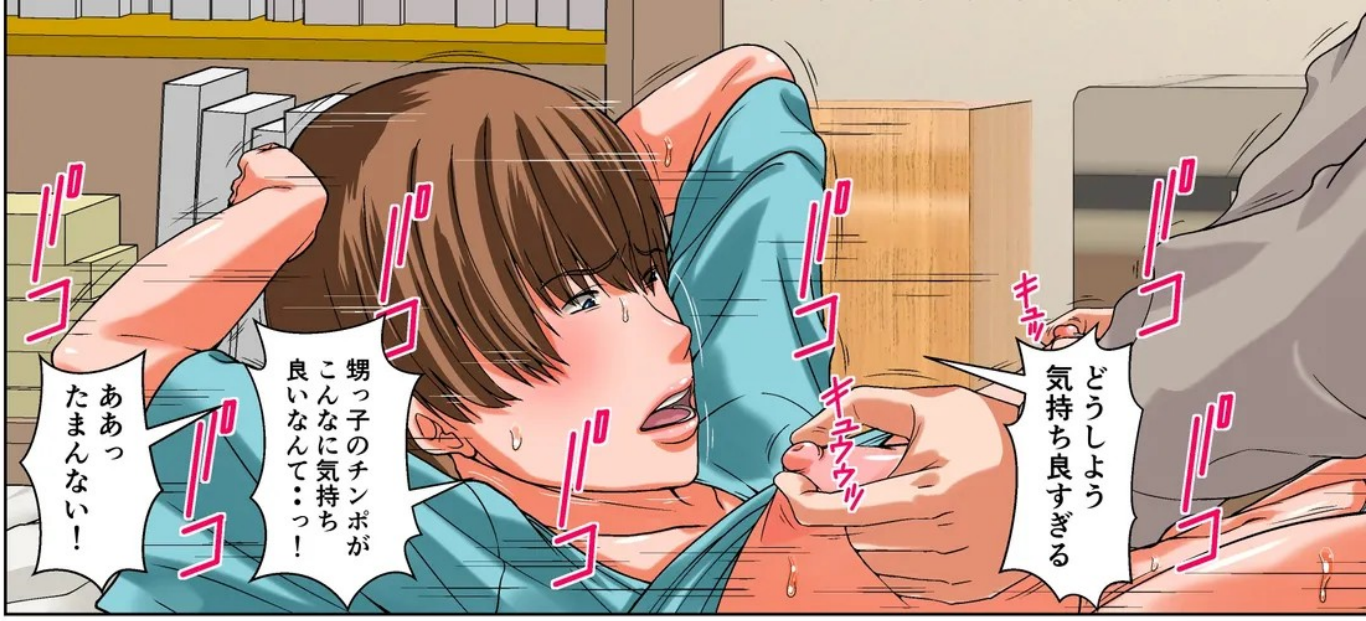

叔母さん
胸触られるの
好きなの
揉んで
舐めて！
ムニッ

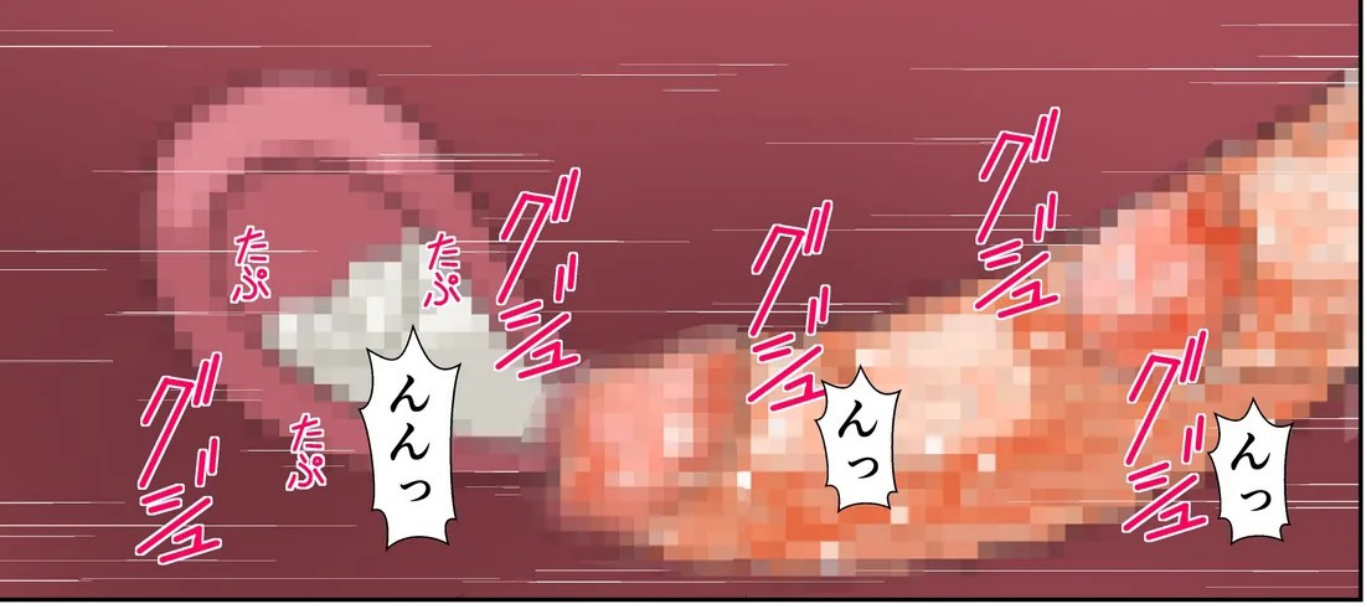

あっ
あんっ
ムニッ


は 早く
イジって！
イジりながら
おちんちんで
突いて！
グニ
グニ


あっ そう
そうよ
叔母さんの胸
好きにしてちょうだい
ああっ 気持ちいい！
突いて 胸揉みながら
チンポで突いて！
パコ
パコ
パコ
パコ
ヂュッ
ヂュッ
ちゅ〜っ
ちゅぱ
ちゅぱ
もみ
もみ
もみ


あっ いいっ
ヒロトのチンポ すっごい！
グニ
グニ
パコ
パコ
パコ
パコ
ギュプ
ギュプ
あっ
乳首も・・っ
乳首もこりこりして
クリ
クリ
クリ
クリ
あっ
パコ
パコ
パコ
パコ
ギュプ
ギュプ
あんっ
あっ 大きい・・
パコ
パコ
パコ
パコ
ギュプ
ギュプ
んあっ チンポっ
太っい・・っ！
モミ
モミ
モミ


どうしよう
気持ち良すぎる
キュッ
キュウウッ
バコ
バコ
バコ

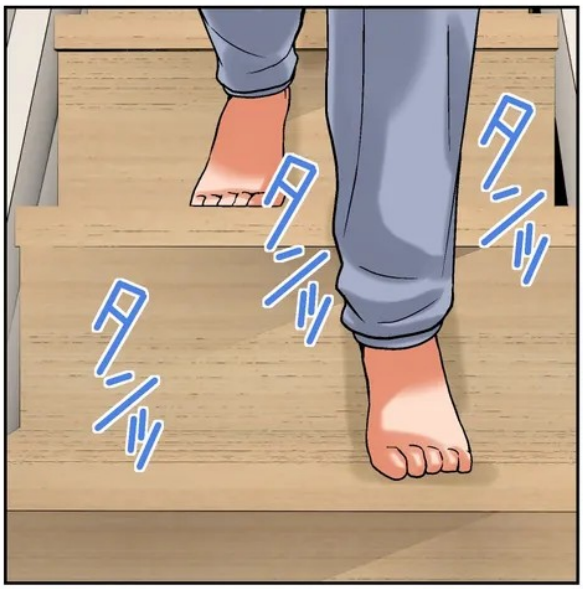

んっ
グッシュ
んっ
グッシュ
んんっ
たぷ
グッシュ
たぷ
グッシュ


ふぅんっ
パコ
パコ
んっ
パコ
パコ
んっ
パコ
パコ

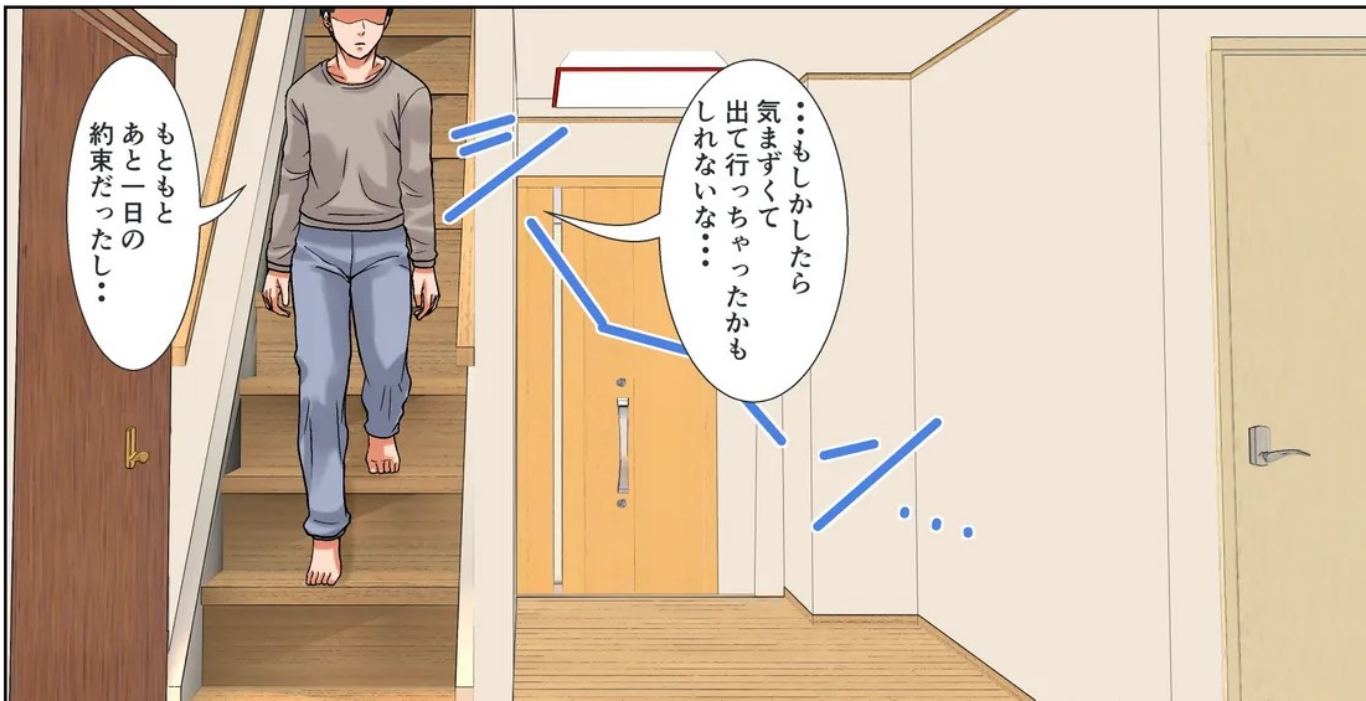

んんんんん～づ！
セーフ
セーフ

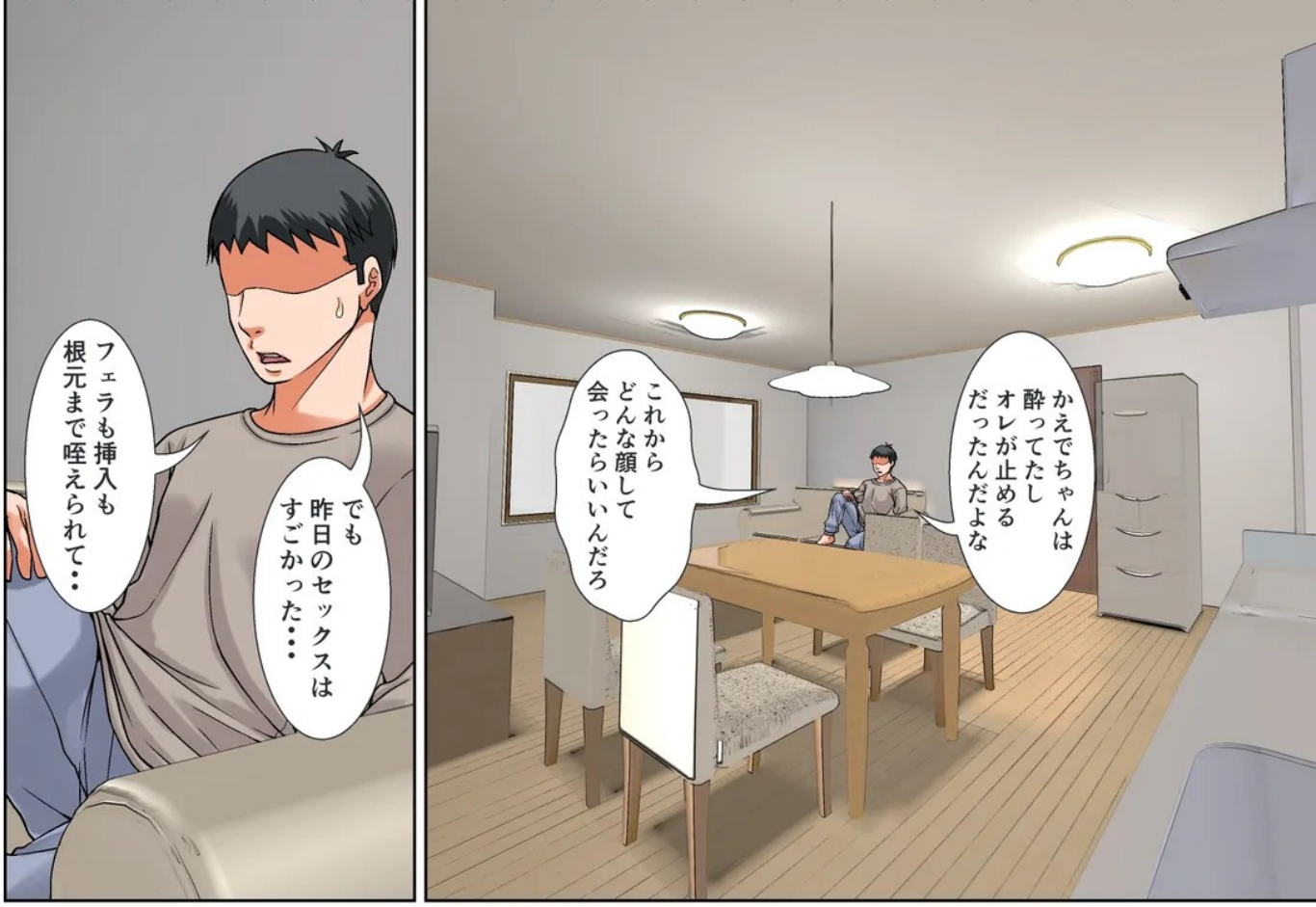

はあ～・・・
やってしまった・



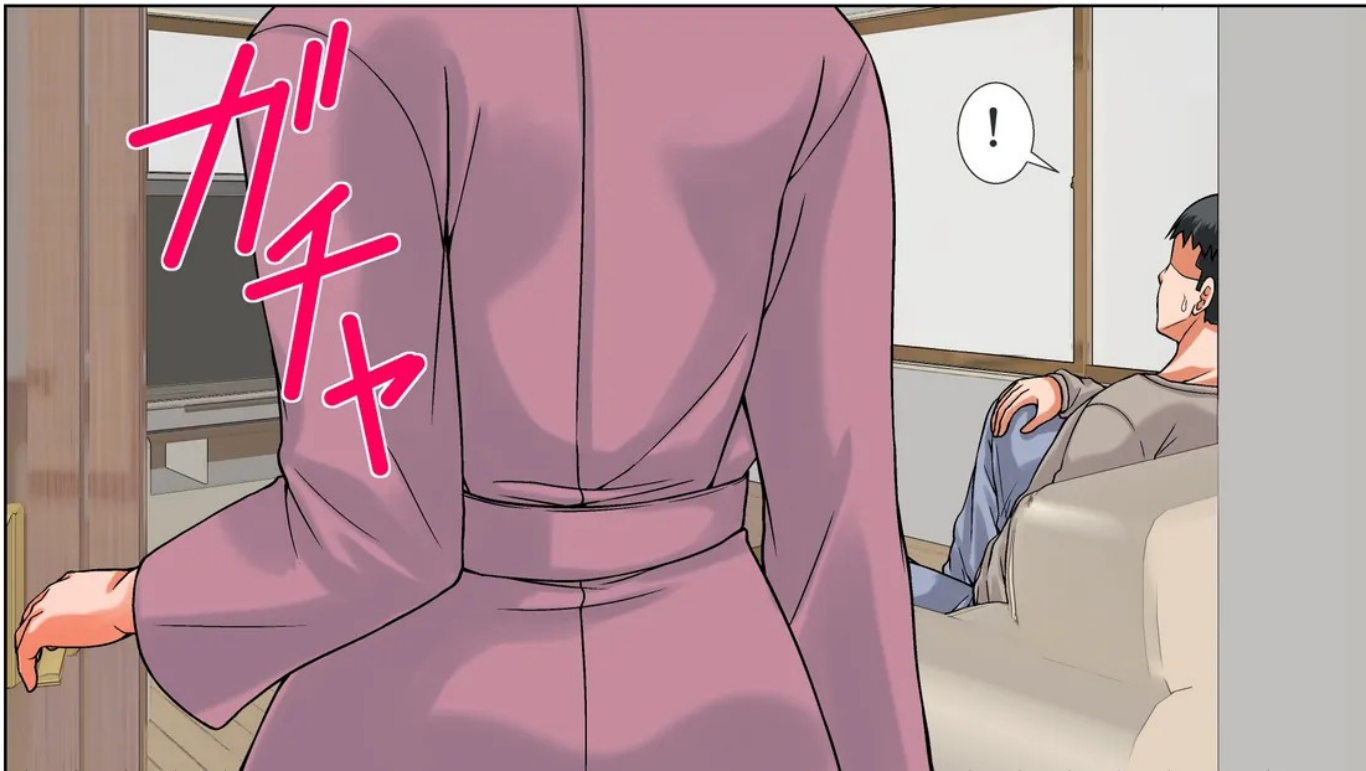

タン
タン
タン


かえでちゃんは出かけたのかな・


もともとあと一日の約束だったし・
・・・もしかしたら気まずくて出て行っちゃったかもしれないな・・・

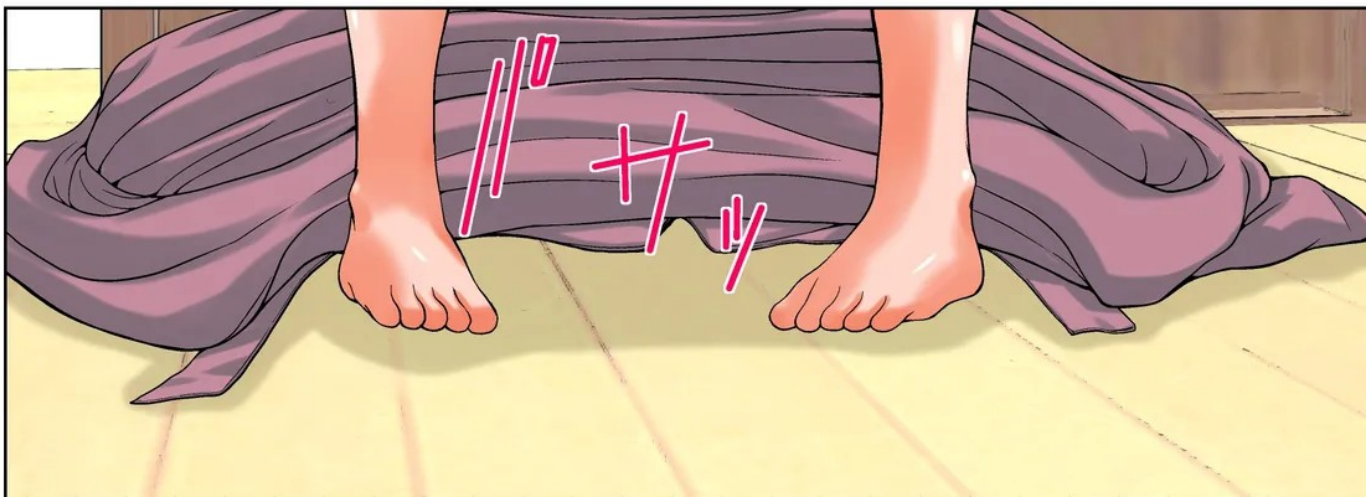

かえでちゃんは酔ってたしオレが止めるだったんだよな
これからどんな顔して会ったらいいんだろ
でも昨日のセックスはすごかった・・・
フェラも挿入も根元まで咥えられて・・


今まで二人と経験あるけどオレのが大きすぎて
ふうっ・・
グッグッ
む むりっ
プル
プル
プル
お 大きすぎる！
クチュ・・
どっちも先っぽしか入らなくてオナニーの方が気持ちよかったもんな


ガチャ
！


ただいま・
ガチャッ・・
か かえでちゃん
ど どこ行ってたの
友達の家に預けてた
服を取りに行ってたのよ
・・・
ヒロトごめんね
おばさんが
間違えてたわ・

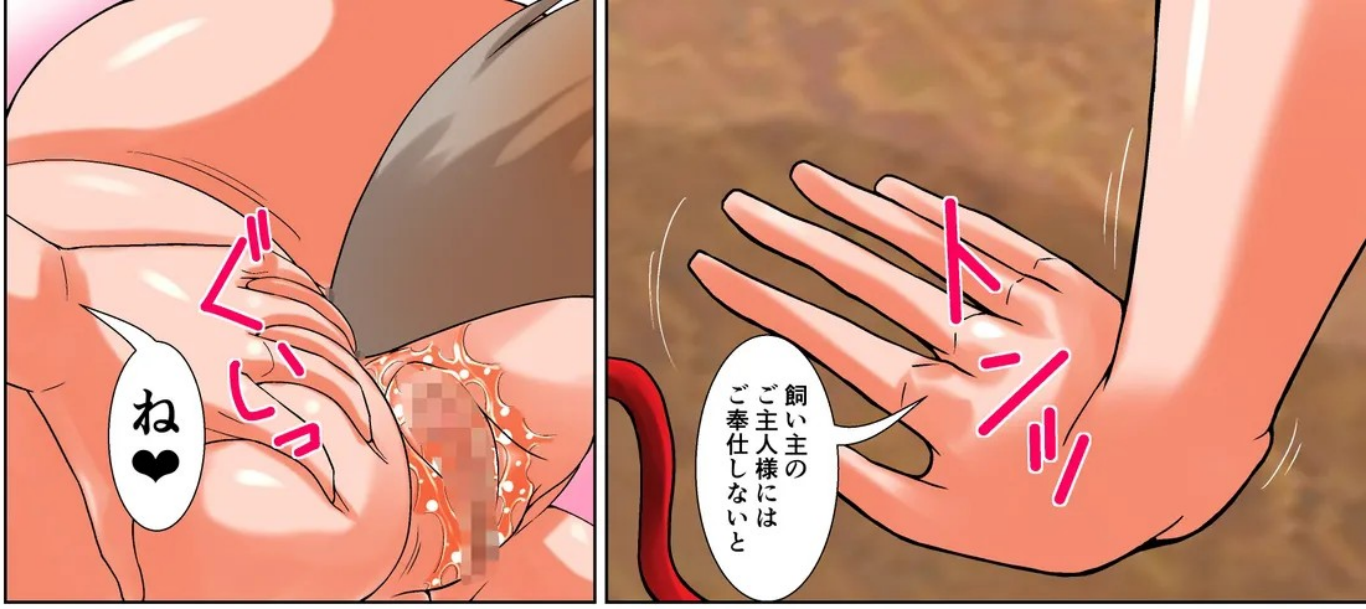

い いや
オレこそごめん
ほ ほら叔母さん
酔ってたし
事故みたいなもんだよ
「一緒に住ませて」
なんて
スルッ・・
叔母さんが
おこがましかったわ


バサッ

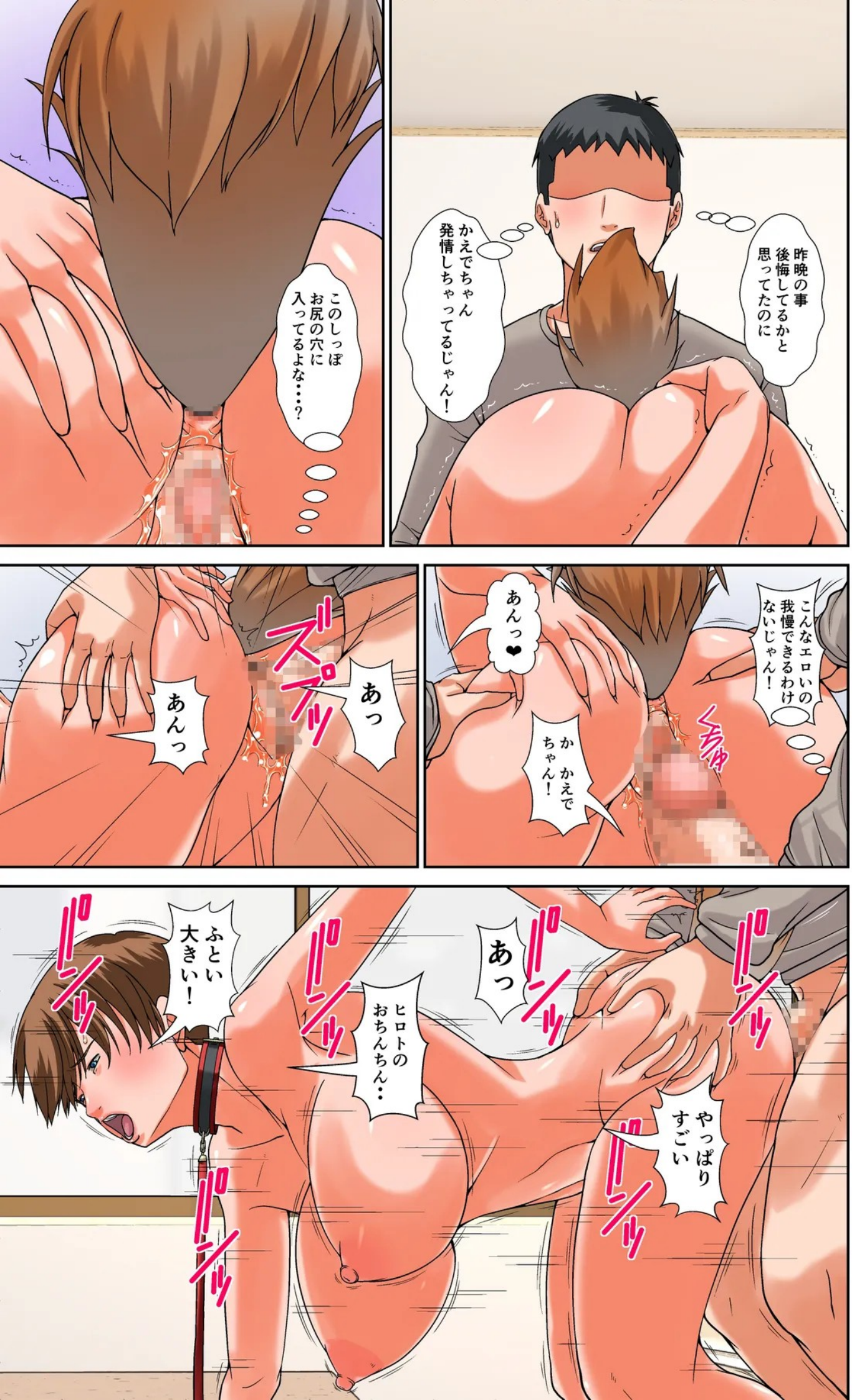

お願い　ヒロト
叔母さんを飼って


飼われるんだから
ヒロトはご主人様よ
なに言ってんの
かえでちゃん・・
ど　どういう事？

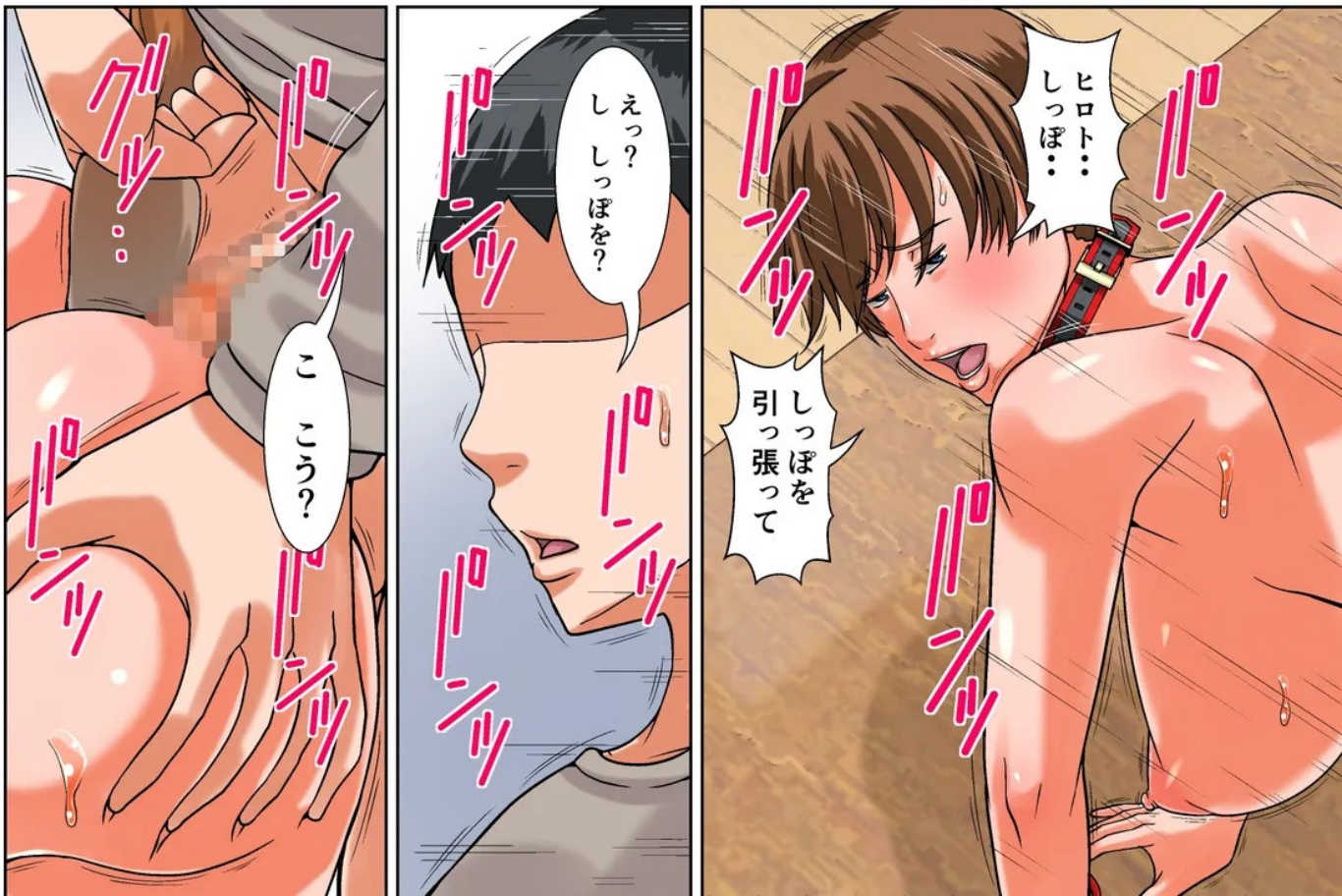

え？


飼い主のご主人様にはご奉仕しないと
トンッ
ぐいっ
ね❤


これからは好きな時に
フーッ
フーッ
好きなだけおばさんの穴を使ってちょうだい

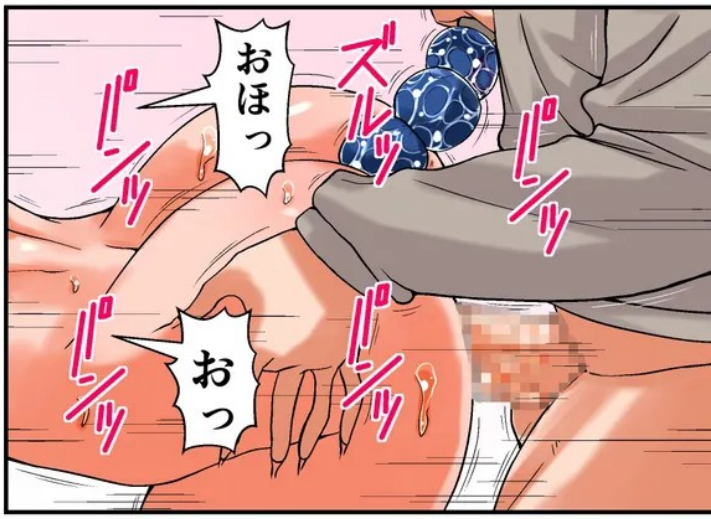

昨晩の事後悔してるかと思ってたのに
かえでちゃん発情しちゃってるじゃん！
このしっぽお尻の穴に入ってるよな…？
こんなエロいの我慢できるわけないじゃん！
かえでちゃん！
あんっ❤
ズッ
あっ
あんっ
ふとい大きい！
ヒロトのおちんちん・・
あっ
やっぱりすごい
パンッ


大きいって
知ってるのに
あっ
記憶を超えてくる
いいっ
いいっ
気持ちいい


ヒロト・・
しっぽ・・
しっぽを
引っ張って
えっ？
し しっぽを？
こ こう？


えっ？
グッ
ヌッ
パンッ
おっ
パンッ
こんな大きいの入れてたの？
ズルッ
パンッ
おおっ
パンッ
パンッ
おっほぉ・っ！
おっ
ほぉぉぉ・っ！
ガクンッ
ガクンッ
パンッ
パンッ
パンッ
ガク
ガク
ガク
ガク
ほおっ・・！
おっ・・ほぉ～・・っ
ガク
ガクッ
パンッ
パンッ
パンッ


さっきから
中で感じてた違和感は
アナルパールだったのか
パンッ
パンッ
パンッ
中でチンポと
擦れて気持ちいい
ズッ・・・パンッ
ゴリ
ゴリ
パンッ
パンッ
おっ
あっ
パンッ

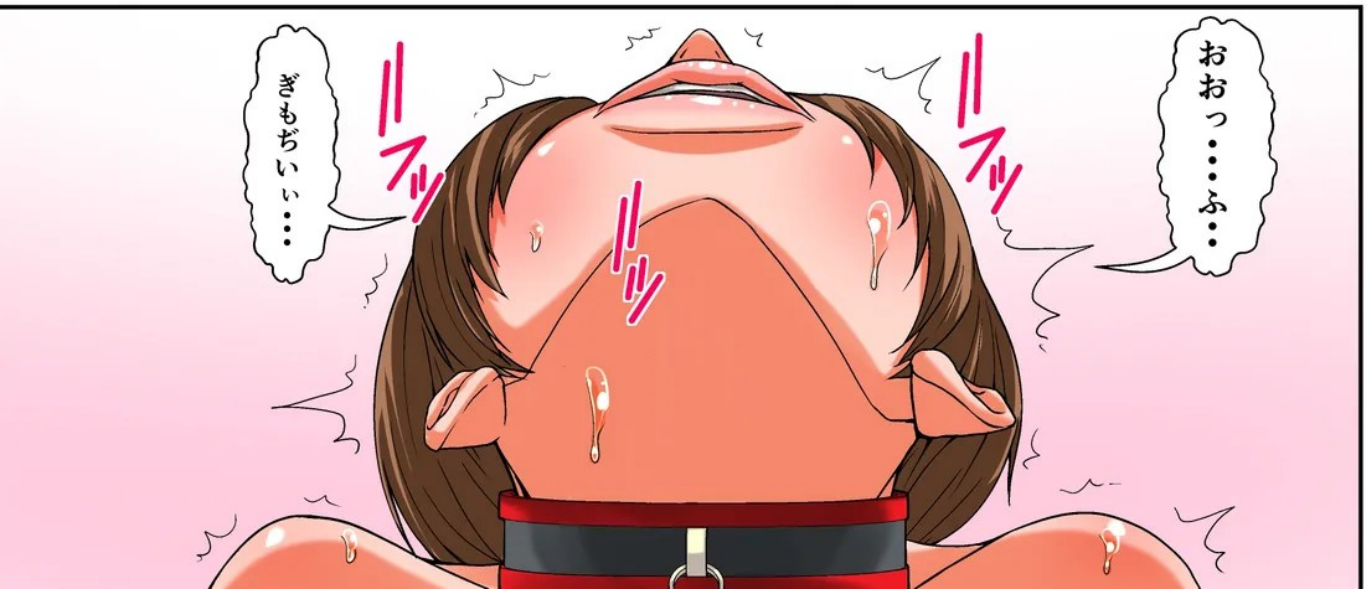

おほっ
ズルッ
パンッ
パンッ
おっ
パンッ
パンッ

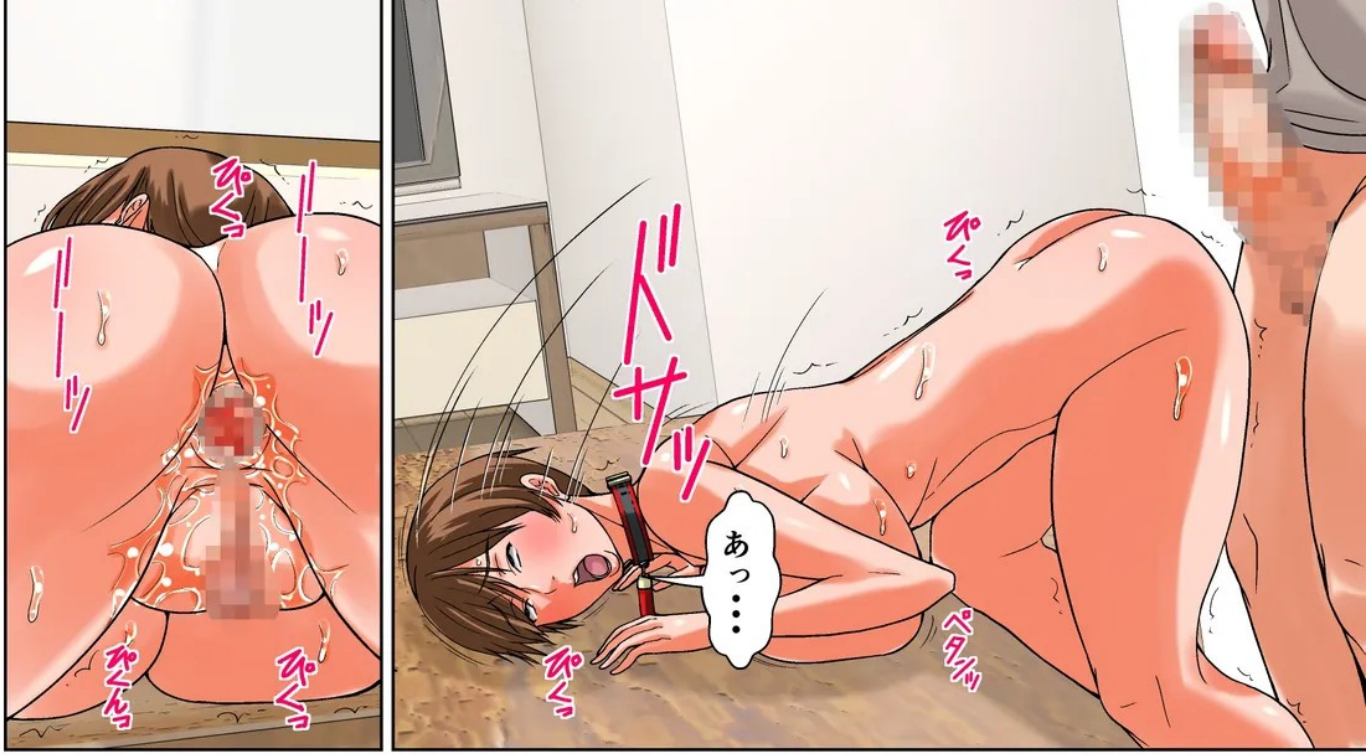

ほおっ
ガクン
ガクン
おっ
ガタ
ガタ

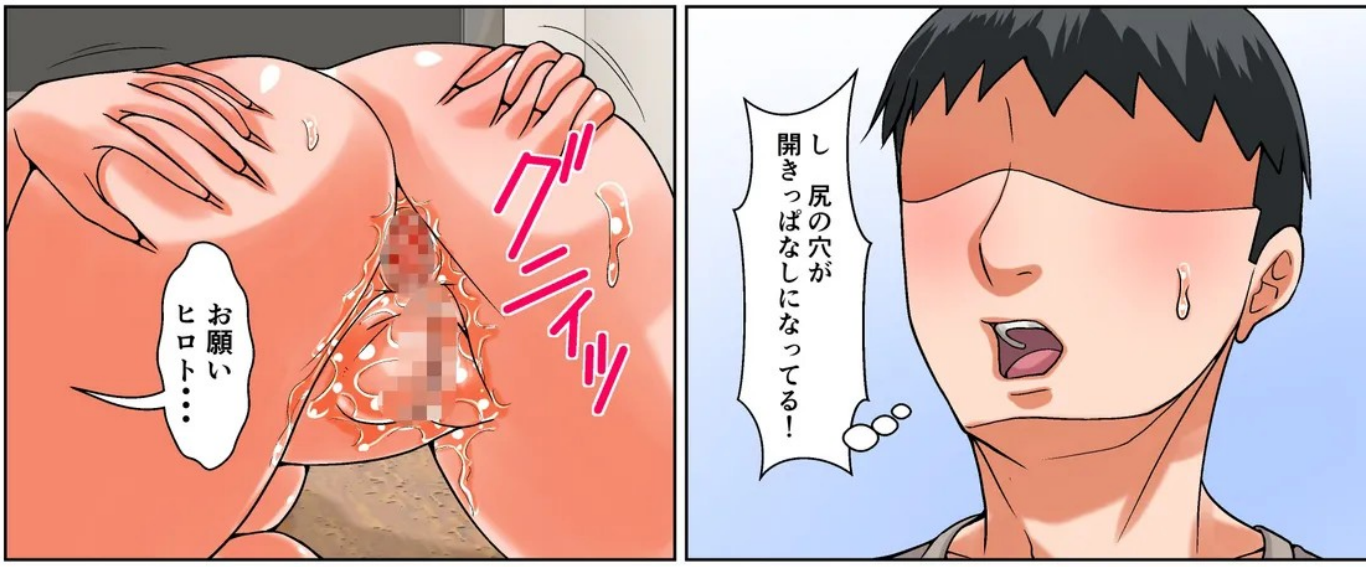

お願いヒロト
一気に・・
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
パンッ
あっ
お尻の穴から
一気に引き抜いて
あん
パンッ


ズルルッ
ちゅぽんっ

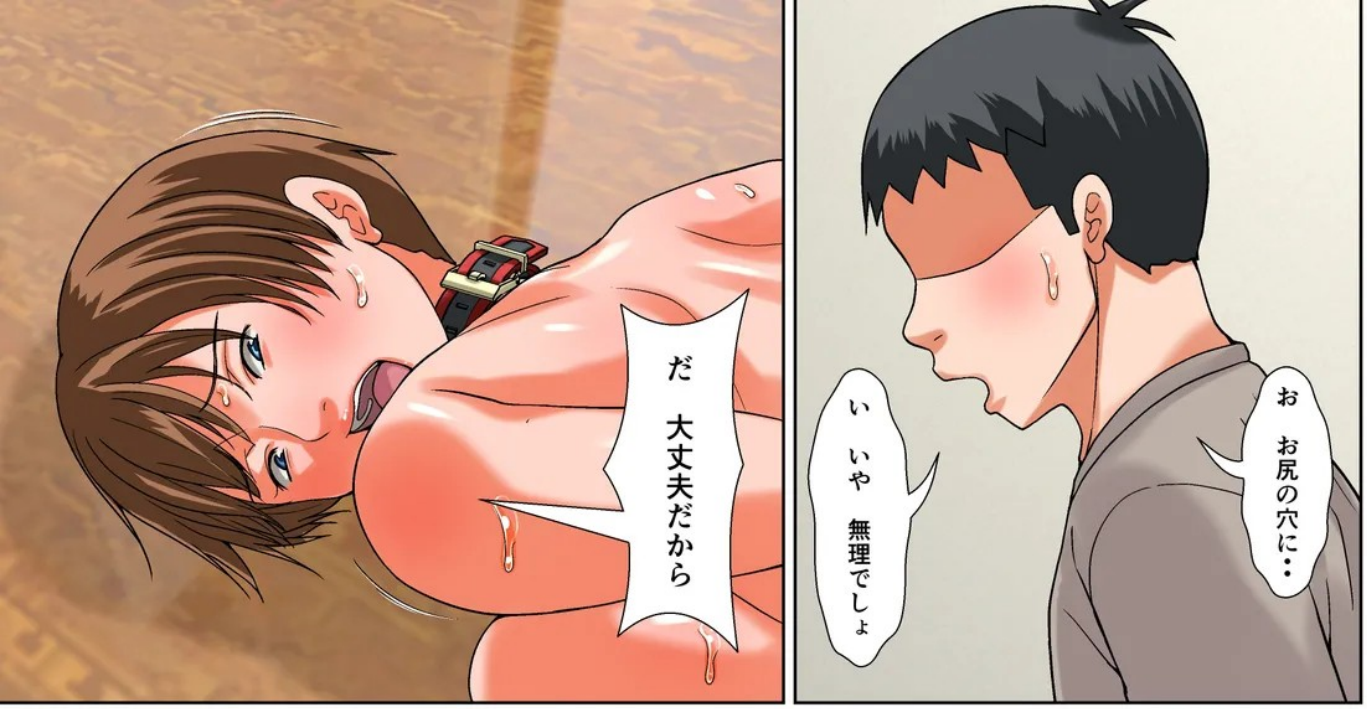

おおんっ
おっ おぉっ！
セクセクセクッ


おおっ…ふ…
ぎもぢいぃ…
フッ
フッ


ぴくっ
ドサッ
あっ・・・
ぴくっ
ペタッ
ぴくっ
ぴくんっ

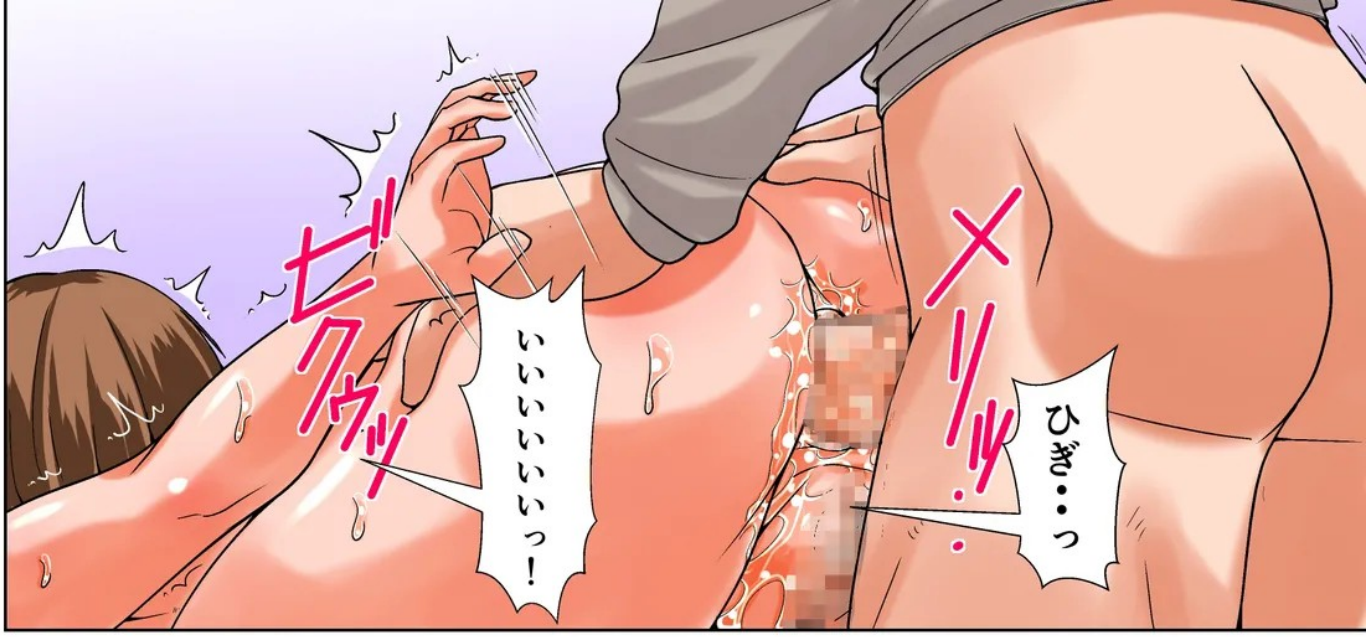

し 尻の穴が
開きっぱなしになってる！
グニィッ
お願い
ヒロト・・・

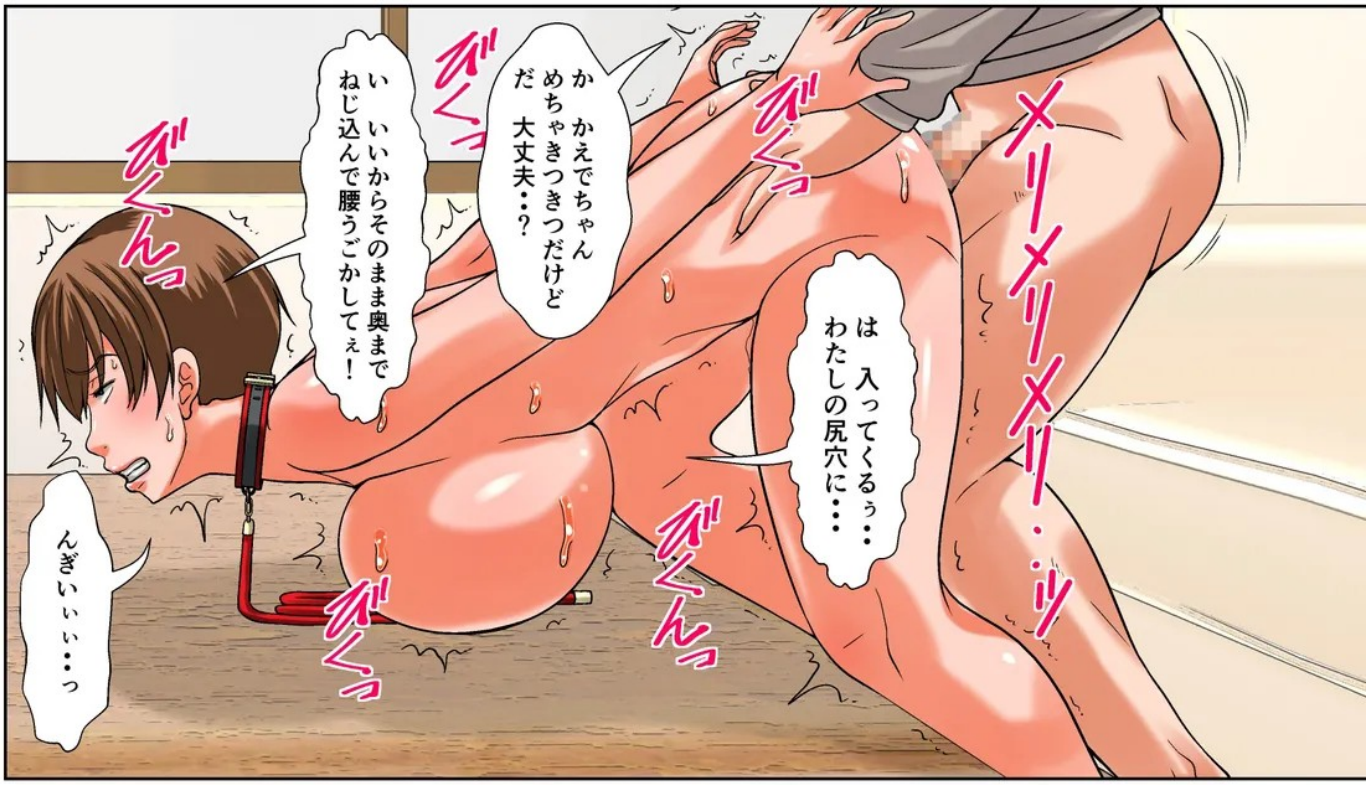

叔母さんの
お尻の穴に・
おちんちん入れて！

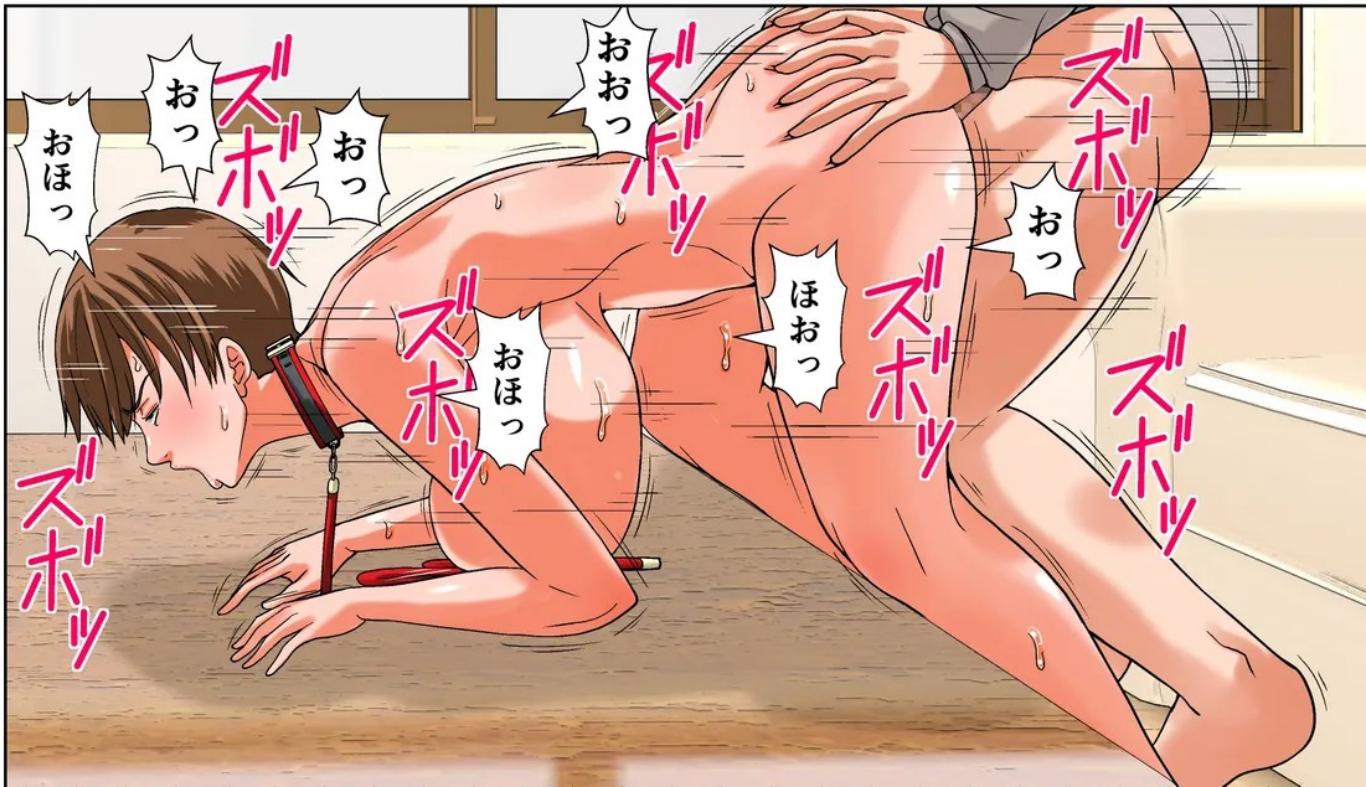

お　お尻の穴に・
い　いや　無理でしょ
だ　大丈夫だから

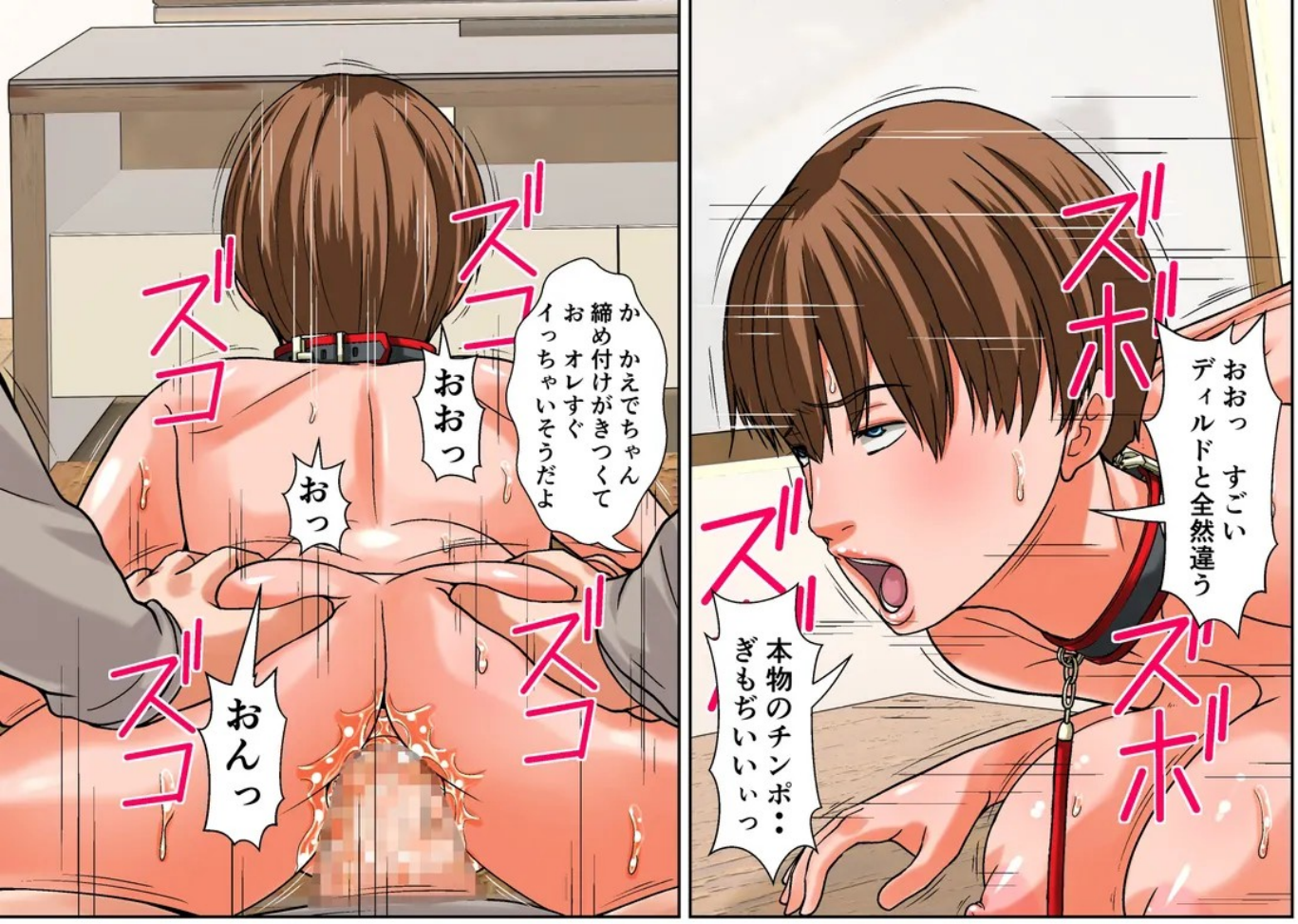

今までできた彼氏には
こんな変態な事言ったら
嫌われると思って
言えなかったから
おちんちんは
入れた事ないけど
あっ
いいっ
大きさだけなら
ヒロトと同じくらいの
ディルドでお尻の穴を
開発してたから
ぐぽ
ぐぽ
ぐぽ


だからお願い
お尻にぶち込んで！
じゃ　じゃあ
入れるよ・・
は　はい！
くちゅ・・

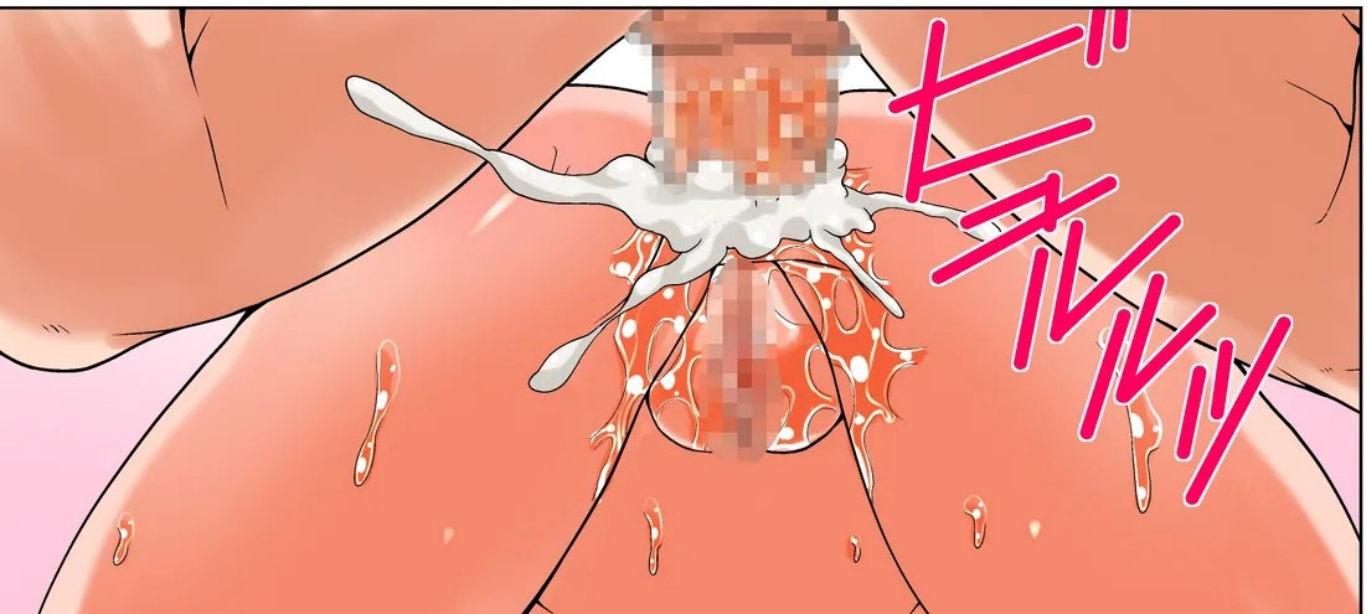

ひぎ・・っ
メリッ・・
いいいいいいっ！
ビクゥッ


メリメリメリ・・ッ
は　入ってくるぅ・・
わたしの尻穴に・・・
か　かえでちゃん
めちゃきつきつだけど
だ　大丈夫・・？
い　いいからそのまま奥まで
ねじ込んで腰うごかしてぇ！
んぎぃぃぃ・・っ
ぐくっ
ぐくっ
ぐくんっ
ぐくっ
ぐくんっ

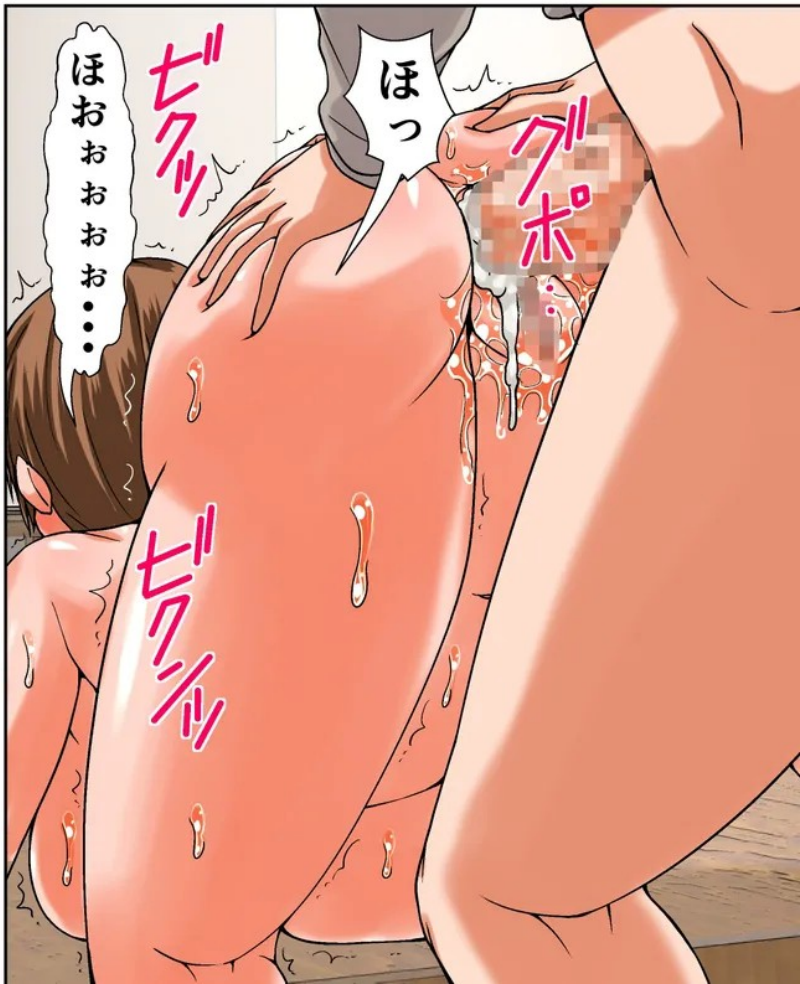

ズボッ
おっ
ズボッ
ほおっ
ズボッ
おほっ
ズボッ
おおっ
ズボッ
おっ
ズボッ
おっ
ズボッ
おほっ
ズボッ


おおっ すごい
ディルドと全然違う
ズボ
ズボ
本物のチンポ・・
ぎもぢいいぃっ
か かえでちゃん
締め付けがきつくて
お オレすぐ
イっちゃいそうだよ
ズコ
ズコ
おおっ
おっ
ズコ
ズコ
おんっ

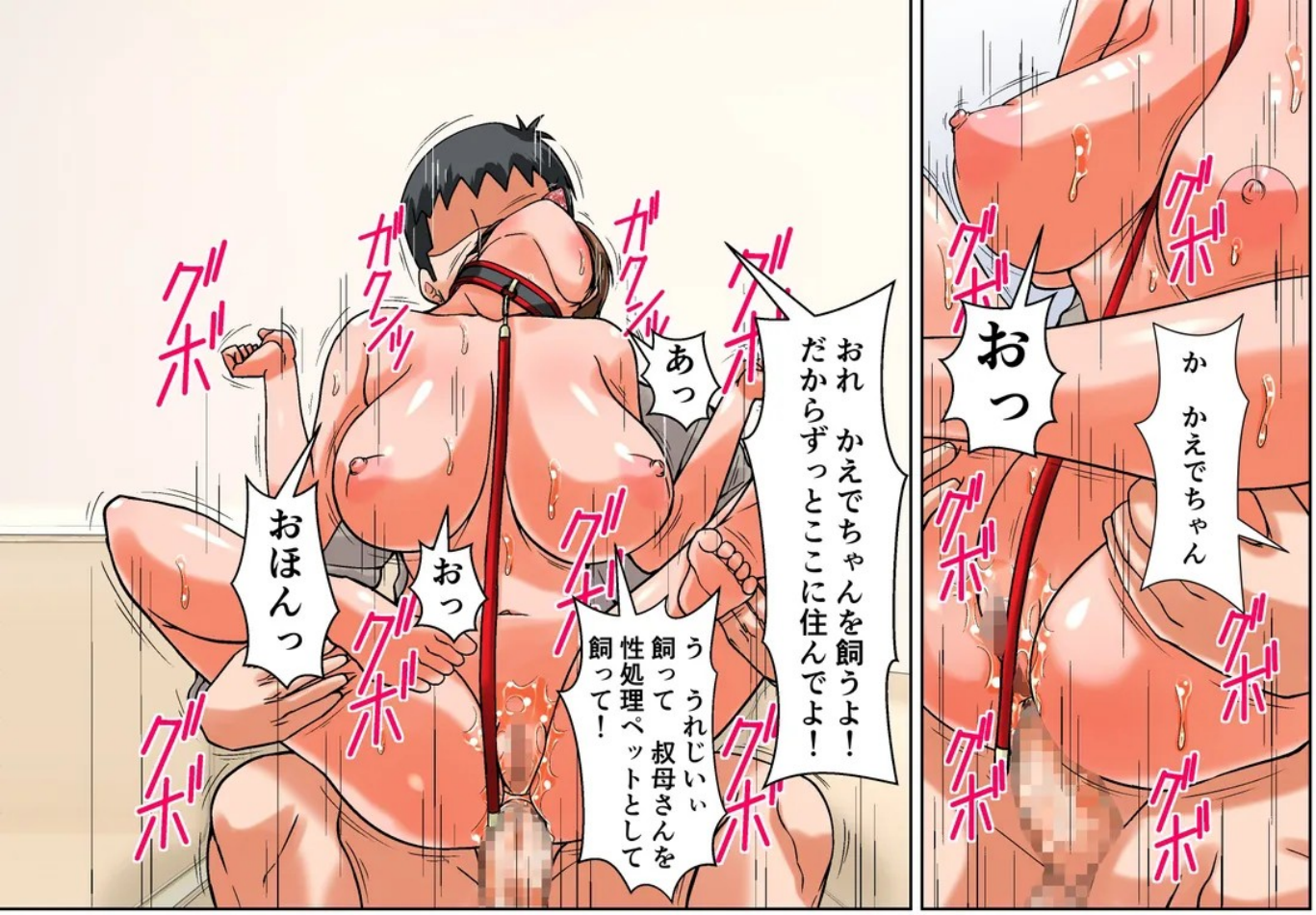

お 叔母さんも
こんなのす すぐ
イっちゃうから・・
ズコ
ズコ
だ 出して
叔母さんの尻穴に
ズコ
ズコ
精液出して!
ズコ
ズコ


ビュルルッ


お・・っ
ほ～おっ！
ビクッ
ビクッ


ほっ
ほおおおおお・・・
グポ・・・
ビクッ
ビクッ


ぎ ぎもぢいい・・
たまんないわ・・
尻穴にぃ・・
生中出し・・・
ピクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ


か かえでちゃん
おっ
グボ
グボ
グボ
グボ
おれ かえでちゃんを飼うよ！
だからずっとここに住んでよ！
あっ
ガクンッ
ガクンッ
グボ
グボ
グボ
う うれじいぃ
飼って 叔母さんを
性処理ペットとして
飼って！
おっ
おほんっ
グボ
グボ
グボ


毎日ヒロトに・・
ご主人様のチンポに
ご奉仕するから
グボ
グボ
グボ
グボ
グチュ
グチュ
グチュ
おっ
だ だから毎日
叔母さんを犯して
おっ 死ぬ
ぎもじよぐで
死ぬ死ぬ死ぬ・っ
ガクンッ
ガクンッ
ガクンッ
グボ
グボ
グボ
グボ
グチュ
グチュ
グチュ


し・っ！
ヒュチュチュッ


いぐうぅーっ！
ガクッガクッ
ビクビクッ